

— エッセイ —

日本皮膚科学会大阪地方会500回までの歴史探訪

前 編集主幹 (大阪大学皮膚科招聘教授)

土居 敏明

はじめに

先ごろ、「近畿皮膚科集談会100年への歴史探訪」と題したエッセイを本誌に投稿させて頂いたが、今回は2023年12月に第500回記念大会が開催された、日本皮膚科学会大阪地方会（以下、地方会）の500回に至るあゆみについて、運営母体である運営委員会や機関誌である「皮膚」と「皮膚の科学」の歴史とともに、関連文献や記憶に基づき記録として残しておきたい。

最近の趨勢として、多くの学術雑誌は、デジタル化が進み紙媒体の印刷物が廃止され、会員はサーバーから読みたい論文を自身のPCやタブレットにダウンロードして、モニター画面を通して読むスタイルになりつつある。確かにそれは時代の流れであり、郵送コストをかけて届けられても保存場所に困って捨てられてしまいがちな紙媒体の印刷物と異なり、デジタルデータは輸送コストも保存空間もいらぬという利点がある。しかし、デジタルデータは、そのフォーマットを解析・表示できる装置がなければ、その内容を確認することができないという欠点がある。例えば、数10年前にカセットテープに録音したお気に入りの音楽やVHSテープに記録した子供の成長記録は、それに対応したカセットデッキやビデオデッキが無ければ単に茶色いテープである。同じく2、30年前にはPCで作成したデータのやり取りにフロッピーディスクが盛んに利用されたが、最近まで使い続けていた役所に於いても、ついにフロッピーディスクの利用が停止されるとのニュースに接するにつけ、フロッピーのみに記録された情報の継承をどうするのか気がかりである。現在盛んに利用されているUSBメモリもいずれ同じ運命をたどることになる。また、現行のCD、DVD、BDも10数年後にはそれらを再生する装置が無くなってしまふに違いない。デジタルデータの儚さを象徴する卑近な例を挙げると、オンラインゲームで高額課金して強力なアイテムを入手していても、そのサービスが終了するやすべては雲散霧消である。一方、アナログ的造形物である紙媒体は、1600年前の「魏志倭人伝」、1300年前の「古事記」、1000年前の「源氏物語」を後世の写本を通じて、現代でも読むことができるが、転記の際に誤字や脱字が生じてしまうリスクと火に弱いという欠点があり、すべてが正確に伝わってきた訳ではない。いずれにしてもデジタル、アナログそれぞれの長所を生かし欠点を補い、情報を後世に残すことが大切である。話が横道にそれてしまったが、先ごろまとめた近畿集談会の歴史は、60年前に櫻根太郎先生が「皮膚」誌4巻に「大阪地方会150回記念」としてまとめられた資料の中に、第1回から第57回までの近畿集談会の記録も一緒に残してくださったおかげで完成できた。されば今から50年後に筆者のような数寄者に見いだされることを期待し、地方会の500回に至る110余年の記録を残すべく、先ずは過日開催された第500回記念大会の様様に言及する。

なお、以下の本文中で、事務的、人事的な記載の部分は敬称を略すことをご容赦いただきたい。

1. 第500回記念地方会の雑感

第500回大阪地方会は、運営委員会（委員長：藤本 学）の主催の下、2023（令和5）年12月3日（日）に、ヒルトン大阪4階金の間/5階桜山の間2フロアを会場として開催された。この3年間はコロナ禍でWEB開催をメインとしていたが、5類相当に降格されたのを機にこの記念大会を現地のみ開催としたこともあり、参加者250（有料236、招待14）名を集め盛会裡に開催することができた。演題は、モーニングセミナー1題、ランチョンセミナー3題、スイーツセミナー3題、一般演題50題が、午前9時20分から午後6時までの間に講演・発表され、それに対して活発な質疑応答が展開された。具体的な内容は抄録をご参照いただきたい。

閉会后、懇親会が行われ、その冒頭に大阪大学名誉教授の吉川邦彦先生のご挨拶があった。事前に「挨拶に役立つような資料は持っていないか？」との打診を受けた筆者は、「集談会の歴史を探る過程で気づいたのですが、大阪地方会の回数カウントが4回分ほどダブっていて、今回本当は504回かもしれません」とお伝えした。しかし、吉川先生は、「せっかくのお祝いの席なので、そのことはほやかせて話をするにしよう」とおっしゃっ

たので、このエッセイではその辺の事情も含めて解説したい。

2. 筆者と大阪地方会との関わり

まず、数多の先輩諸兄を差し置いて僭越ながらこの文章を執筆させていただく筆者と大阪地方会の関わりについて述べておきたい。

「大阪地方会」と聞くと、殆どの先生は年6回の学術集会と機関誌の「皮膚の科学」（あるいは前身の「皮膚」）を連想するはずである。いきなり（全国大会の）総会で学会デビューを果たした先生もいるとは思いますが、大半は地方会がデビュー戦になったのではないと思われる。筆者は1980（昭和55）年7月1日に研修医として大阪大学皮膚科学教室（教授：佐野榮春）に入局し、西岡 清先生、片山一郎先生、晒 千津子先生、小林與市先生、船井龍彦先生、前田 求先生、（橋本公二先生は留学中）など錚々たるメンバーが在籍する第二研究室に同期の横関博雄先生とともに所属させて頂いた。2週間後の同年7月12日に開催された第242回大阪地方会にて『環状配列を示した類天疱瘡』（土居敏明、片山一郎、晒 千津子）という演題で学会デビューを果たすも、すべてオーベンの片山先生と病棟医長の晒先生がまとめてくれた原稿をひたすら読むというものであった。また、1980年当時地方会は年5～6回開催されていたが、12月は研究演題のみの「研究地方会」として開催されていた。筆者は、1982年12月18日、第255回地方会で『正常ヒト表皮細胞の増殖とヒスタミン』（土居敏明、片山一郎、西岡清、前田 求、前山一隆）という演題で発表をした記録が残っている（「研究地方会」は1978年から1993年まで開催されたようであるが、その後は「テーマ演題」や「研究セッション」と形を変えて現在に引き継がれている）。なお、機関誌の「皮膚」への筆者の初投稿は、1982年7月に青木敏之先生が主催された「蕁麻疹シンポジウム」で発表した内容をまとめた「寒冷蕁麻疹におけるヒスタミン定量の試み—H1 および H2 antagonist の影響—：皮膚 25：66, 1983であった。

次いで、筆者が地方会の運営に関わってきた経緯に触れたい。1994（平成6）年7月大阪厚生年金病院の部長に就任された岡田奈津子先生の後任の講師として教室に戻った筆者は、岡田先生に代わって大阪地方会の会計を担当することになった。さらに、翌1995（平成7）年4月に愛媛大学教授に栄転された橋本公二先生の後任として、地方会の庶務も兼任したが、庶務は同年11月助教授に就任された板見 智先生に引継ぎ、筆者は会計に専念することになった。（注：地方会の運営委員は3年毎の選挙により選出されるが、庶務と会計は、運営委員長から任命される指名枠である。）会計を任された際、地方会事務秘書の亀山紀子さん（1991年～1997年3月）から、「このところ印刷費の高騰で自転車操業状態が続いているんですよ」と聞かされ、財政再建が急務であることを認識した。

1980年代、年会費（6千円）収入は専ら学術集会の運営に充てられ、雑誌の発行費用は、編集委員の努力により、治験論文の掲載料と企業からの広告収入で賄われ多額の黒字を生み出していた。バブル絶頂期の1990（平成2）年には、1巻～30巻までの総索引製作に800万円を費やしても尚数千万円の黒字を保つ余裕があったのが、1991年を境に日本経済はバブルが崩壊し、企業が自己防衛に走り始めたことで急激に経済状況が悪化した。1992～3年にかけては、印刷費用として年間3千万円以上（1号あたり500万円！）を要したのに対し、年間掲載料収入が2千万円を切る状況で、年間1千万円の赤字が続いていた。1994年に筆者が会計を引継いだ時点で2千万円以上の前年度繰越金があったが、このままでは早晚借金運営に陥ることは不可避であった。これに対し編集長の手塚 正先生は危機感を持ち対策を打ち出した。まず、印刷コスト削減のため、OA化により現行よりもリーズナブルな対価で請け負う印刷所に発注することになり、合議・検討の結果、「洋々堂」から「あさひ高速印刷」に発注先を変更した。同時にB5版からA4版に大型化して頁あたりの情報量を多くするとともに、カラー写真を多用することで視認性の向上にも寄与した。外観的にも表紙のデザインをプロのデザイナーに依頼して、クリームイエローの上品なものに一新された。（このデザインは現在の「皮膚の科学」にもイメージが継承されている。）これにより印刷コストは、年間2200万円（1号あたり360万円）に削減されるも、企業からの掲載料の落ち込みは治験の激減とともに予想を超えるものであった。会計担当としては、編集会議（当時は、10数名の編集委員が、千里中央や梅田の会議室を借り切って、一堂に会して1号分の雑誌に掲載する予定の論文を輪読・査読し、対面で合議をしながら、掲載決定・次号回し・リジェクトなどの判断をしていた。フィルターの無いピースを吹かしながら査読していた須貝哲郎先生のお姿が懐かしい）に出席して頂く編集委員の交通費を切り詰めたり、年末の運営委員会の席で提供していた弁当のランクを下げるなど、細かい経費の削減を計るも焼け石に水であった。そのような中で、亀山さんが1997年春に退職したため藤村知里さん（1997年4月～1998年5月）を採用し、それまでのアドバイスを受ける立場から、指示を出す立場に変わり、亀山さんをはじめ歴代の事務秘

書が引き継いでいたマニュアルに助けられながらも試練が続いた。学術集会の運営では、従来、主催者の所属先施設の講堂や北浜の資生堂大阪ビルなどで安価に開催していたが、会員の増加に伴い大規模収容の会場を要するようになり、1回あたり上限30万円の補助で十分であったのが、主催者に負担を強いる回もあり、会費収入は集会の運営費としても不十分で、雑誌の赤字の補填をするどころではなかった。試算を重ねた結果、1998（平成10）年より年会費を1万円に値上げすることを通常委員長の吉川先生に上申し、同年2月の総会で可決いただいた。その刹那「定期預金を解約しないと印刷代が払えません」と嘆く藤村さんの報告に接し、年会費が集まるまで印刷費の支払い猶予を乞うという綱渡りを経験した。あの時、年会費の値上げが1年遅れていたら、大阪地方会は解散に至らずとも、機関誌の休刊を余儀なくされたであろう。漸く地方会は会費の値上げにより財政問題は一息ついたが、前後して京都大学の宮地良樹先生（1998年6月教授就任）から吉川運営委員長に「皮膚」と「皮膚科紀要」との統合の話が持ち掛けられた。京都も雑誌刊行維持に苦しんでいたのである。両誌の合併の話は先代の佐野榮春先生（阪大）＝今村貞夫先生（京大）のころから打診があったようだが、先送りになっていたものがついに「待ったなし」の状況であった。

前回のエッセイでも述べたように、「皮膚」と「皮膚科紀要」は2002（平成14）年に統合されて、現在の「皮膚の科学」（ちなみにこの名称は公募により募集された5つの候補の中から編集委員の投票により決定されたもので、英語表記は「SKIN RESEARCH」が踏襲された）として再出発したのだが、「紀要」は、1999年を以って休刊し統合準備に入っていた。雑誌部門を統合するとしても、運営部門は大阪、京滋地方会ともに独立したままであり、会計処理の構造改革の必要に迫られた。従来、大阪地方会の内部で運営部門と雑誌部門を明確な区別なく会計処理をしていたが、1999年以降は、運営部門と雑誌部門に区別して会計処理をするように仕組みを改め、新任の光山久実子さん（1998年6月～）に指示した。その際、京滋側から雑誌刊行費用をどの程度分担するのが妥当かという照会があり、会員数の比率から、大阪：京滋を3：1で供出するのが妥当ではないかと回答し京滋側の同意を得た。かくの如き大枠を作った後、筆者は2000（平成12）年10月に大学を去り、市中病院で勤務することとなり、会計を浅田秀夫先生に引継いだ。

2000年10月以降、筆者と地方会との関わりは「皮膚」の編集委員のみとなるも、2001（平成13）年には正式に運営委員に選出頂き、2003（平成15）年からは、山田徹太郎の後任として、夏秋 優、山田秀和とともに編集幹事の一人として、さらに2013（平成25）年からは編集主幹として、「皮膚の科学」の編集に関わらせて頂いた。その間、手塚 正（1995～2008年；皮膚37巻～43巻、「皮膚の科学」1巻～7巻）、堀口裕治（2009～2012年；8巻～11巻）、川田 暁（2013年；12巻）、岡本祐之（2014～2017年；13～16巻）、浅田秀夫（2018年；17巻）、森脇真一（2019年～；18巻～）と歴代の編集長をお支えた後、2021（令和3）年末をもって退任し、後任の小澤健太郎に編集幹事を引継いだ。途中、諸般の事情により2010年から印刷会社を「あさひ高速印刷」から、現在の「山代印刷」へと変更したが、あさひ高速印刷の西村氏、山代印刷の田淵氏には大変お世話になったので、この場でお礼を申し上げたい。（この段、敬称略）

3. 大阪地方会機関誌「皮膚」の歴史

「皮膚の科学」の歴代の編集長をご紹介したので、前身である「皮膚」についても紹介をしたい。「皮膚」は昭和34年5月に創刊された。上皇陛下が美智子さまとご成婚された翌月のことであるが、当時3歳の筆者には、創刊の経緯は不案内のため、「皮膚」の刊行当時から関わられた畑 清一郎先生が、「皮膚」の最終号（2001年12月刊）に寄稿した「皮膚」誌の歴史—その43巻のあゆみ—から引用する。

創刊事情

「皮膚」誌創刊は大阪大学藤浪得二教授の発案による。その頃、藤浪教授には解決を迫られている幾つかの懸案事項があり、そのうちの一つに大阪地方会の抄録の問題があった。それまで大阪地方会抄録は、日皮会誌（前身は「皮性誌」）に掲載されていた。その整理および日皮会誌への依頼は、大阪大学が担当していたが、藤浪教授着任の頃よりの未整理未掲載抄録が溜まっていた。その十数回分を整理し、日皮会誌に送ったところ返却されてきた。理由は欧文抄録を付せというものであった。橋本誠一医局長が知人の小児科野上ドクターに英文への翻訳を依頼し、出来上がった英文ともども日皮誌に送ったが、又もや返送されてきた。掲載予定論文数が多いため、抄録の一括掲載は不可能であり、原稿を預かっておくと紛失の可能性もあり一旦お返すするという一文が付されていた。このことは藤浪教授を困惑に陥れた。滞っている大阪地方会抄録の雑誌への早期掲載について会員からの強い要望があるだけでなく、年6回開催されている地方会の抄録掲載の今後についても困難が予想されるからである。ここで、滞っていた原稿を一掃し、今後の地方会抄録をも気兼ねすることもなく掲載できる新しい

雑誌を作るという案が着想された。幸い印刷については、刊行中であった皮膚病図説の縁により、永井書店の協力を当てにすることができたので、他の理由も重なり雑誌刊行が決まった。

発刊

昭和34年（1959）5月25日、皮膚第1巻1号発行。英文雑誌名として“Skin Research”を採用。原則として2月、5月、8月、11月の季刊。但し第1巻は1号が5月刊行となった関係上4号を12月刊行。B5版。大阪大学皮膚科教室発行。永井書店印刷。各号売値200円。

2巻 当初は大阪大学皮膚科教室発行であったが第2巻からは大阪地方会機関誌となった。

3巻 会費は年額1,000円（暫定）

4巻 1号に櫻根太郎：日本皮膚科学会大阪地方会—150回のあゆみとその背景—を掲載（筆者注：この資料が、このエッセイにおいても前回のエッセイにおいても「根幹」となる情報である）

5巻 年会費は1,500円

（中略）

12巻 これより薄緑地表紙に雑誌名、目次を濃緑色印刷に変更

4号 初めての世話人選挙が行われ、昭和45年5月10日付で全会員に通知された。

（中略）

変革

昭和43年頃より起こった学園紛争は大阪地方会に属する各大学皮膚科にも波及し（中略）矛先は学会へも向けられ学会を改革し民主的運営を実施せよとの主張となった。（中略）その結果、日皮会総会での混乱は理事長の交代をもたらし（中略）大阪地方会においても規約改定、選挙制による運営委員の選出などが実施されることとなり、雑誌も運営委員会により選ばれた編集委員長のもとで刊行されることになった。運営委員会は安原稔教授を編集委員長に選んだ。編集委員長の下に実務担当の編集幹事を置き、編集委員会が編集にあたることになった。印刷は、以前から辞退希望のつよかった永井書店に代わり（中略）数社の候補の中から（中略）「洋々堂」に依頼することとなった。

第14巻～第33巻

編集委員長：安原 稔 編集幹事：畑 清一郎、佐々木宗一郎、須貝哲郎

第15巻

これより白地表紙に雑誌名、目次を緑色印刷に変更

第23巻

これより偶数月の隔月発刊（年6号）、白地表紙に雑誌名、目次を青色印刷に変更

第34巻～第36巻

編集委員長：濱田稔夫 編集幹事：畑 清一郎、佐々木宗一郎、須貝哲郎

第37巻～第38巻

編集委員長：手塚 正 編集幹事：細川 宏、猪原慎一、山田徹太郎

第38巻

これよりB5版をA4版に変更。黄色地表紙に「皮膚」を褐色、英文題名、巻号、機関誌などの文字を黒色、白地裏表紙に目次を黒色印刷の仕様となる。同時に印刷所をあさひ高速印刷に変更。

第39巻～第43巻

編集委員長：手塚 正 編集幹事：夏秋 優、山田秀和、山田徹太郎

終刊

「皮膚」誌最終編集会議が平成13年9月19日、千里朝日阪急ビル14階5号会議室において開催された。日本皮膚科学会大阪地方会および京滋地方会の機関誌創刊に伴い、「皮膚」は第43巻6号（平成13年12月、2001）を最終号とし今後の活動は「皮膚の科学」と名前を変えて続けられることとなった。（以上、引用終わり）

2002年に創刊された「皮膚の科学」の略沿革については、前項の記載を参照頂きたいが、「皮膚」が年4号で創刊されて、23巻から年6号になったのに対して、「皮膚の科学」は、年6号で発足するも、19巻から4号に縮小されたのは残念である。

なお「皮膚の科学」の編集作業において特に印象深いのは、手塚編集長の肝いりで始まった Ken Hashimoto の執筆による皮膚病理学に関する50回（1回分が70頁以上）に及ぶ講座である。著者から送られてきた手書きの

原稿を手塚先生が一般人でも読めるように書き直し、同時に送られてきた大量の 35 mm スライドをスキャンするのだが、色調整に苦勞したことを思い出す。この講座は、上下 2 巻に分けて単行本としてあさひ高速印刷から刊行される予定であったが、下巻の刊行に難渋したと記憶している。

4. 大阪地方会の500回の歴史をたどる

改めて大阪地方会の黎明期からの歴史のあゆみをたどることにする。幻の 4 回の話もさせて頂くが、ここで歴史を語るにふさわしい先生に登場願うことにする。1992（平成 4）年に第300回の大阪地方会を記念して作成された「皮膚」第34巻・特集号の冒頭に佐野榮春先生が記された文章を引用する。

大阪地方会は明治42年 5 月 7 日、日本皮膚科学会大阪支会として第 1 回が開かれ、その後大正一昭和を通じ順調な発展をとげ、81年を経て平成 2 年 7 月、300回を迎えるに到った。

創立に際し発起人代表となり初代会長となった櫻根孝之進博士は大阪府立高等医学校（阪大の前身）教諭であり、因みに当校皮膚科（当時は皮華科）の開講されたのは明治36年（1903）1月10日のことであった。大阪支会設立の契機としては、その翌年初めて大阪の地で開催されることとなった第 3 回日本医学会総会の準備というか受皿としての意図があったと聞いている。第 1 回地方会の模様は皮泌誌、9(5)、459。明治42に記載されているが、開会の由来および主旨・祝辞に引き続き 7 題の演題が発表された。参考までに皮膚科関係を挙げると、人癩の家鼠接種試験（八杉正義）、ポロケラトージス患者供覧（櫻根孝之進）、増殖性梅毒疹患者供覧（志賀 律）、水銀注射液（億川攝三）などである。（筆者注：第 1 回の演題と会則を Fig. 1 に示す。患者供覧とは、文字通り会場に患者本人が登場して、参加者がそれを診察し、討議するもので、今では人権上の問題のため実現は不可能であろう）

なお、日皮会地方会としては、東京が明治34年（1901）通常会として発足したのが最初で、次いで福岡が明治40年（1907）9月、第 1 回九州支会として開催（そのため東京の通常は明治41年 6 月第30回より東京支会と改称）、従って大阪地方会は本邦三番目ということとなる。続いて京都集談会（大正 3 年1914）、長崎地方会（大正 4 年1915）となる。

300回の地方会を50回きざみにその推移をみると、（中略）第100回（昭和21年）までは年 2～3 回ほぼ定期的で開催されていたが、その間、大正 6 年阪大病院全焼、昭和20年第二次世界大戦末期に夫々一時休止しているが、戦後は終戦後僅か40日で昭和20年 9 月29日再開している。記念例会は150、200、250回の三回ほぼ10年毎に持たれている。とくに150回、200回においては櫻根太郎、志水靖博両氏により詳細な本会の経緯が語られ、今回

○本會大阪支會成立

大阪地方ニ於ケル本會々員諸氏ハ去ル七月七日ヲ以テ大阪府立高等醫學校ニ集會シ滿場一致ヲ以テ支會設立ノ件ヲ議決シ章程ヲ定メ役員ヲ選ミ終ツテ日本ホテルニ晩餐會ヲ開キ和氣霽々ノ禮ニ散會セリ當日ノ順席左ノ如シ

<p>一、開會ノ由来及ビ主旨</p> <p>二、祝辭</p> <p>三、人癩ノ家鼠接種試験ニ就テ</p> <p>四、ポロケラトージス患者供覧</p> <p>五、尿管狭窄療法ニ於ケルルフォール氏法ニ就テ</p> <p>六、増殖性梅毒疹患者供覧</p> <p>七、水銀注射液ニ就テ</p> <p>八、淋毒菌培養法ニ就テ</p> <p>九、淋療法ニ就テ</p> <p>十、議事</p> <p>又タ其規則及ビ役員左ノ如シ</p>	<p>櫻根孝之進君</p> <p>佐多愛彦君</p> <p>八杉正義君</p> <p>櫻根孝之進君</p> <p>西山莊三君</p> <p>志賀律君</p> <p>億川攝三君</p> <p>八杉正義君</p> <p>櫻根孝之進君</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

規 則

一、本會ハ日本皮膚科學會大阪支會ト稱ス

二、本會ハ大阪地方ニ在ル日本皮膚科學會々員相互親睦及智識ノ交換ヲ以テ目的トス

三、本會ハ毎奇數月ノ第二若クハ第三土曜日ニ通常會ヲ開ク但、會場ハ當分大阪府立高等醫學校内トス

一〇七一

Fig. 1 第 1 回演題と会則

の記述も両氏に負うことが極めて多い。

今回300回を迎えるにあたり、改めて過去の記録を通覧すると、思いがけぬ奇異な点に気がついた。すなわち櫻根太郎博士の「大阪地方会第150回の歩みとその背景」(皮膚, 4: 41, 昭和37)の記念学会参考資料中に、昭和初めに4回の地方会が同じ回数を用いて重複していることで、額面通り受取れば今回は第304回に当たることとなる。具体的には昭和2年3月6日～3年2月12日の4回(第50～53回)、あるいは53回が(49)となっているので、昭和2年1月30日～3年9月18日(49～52回)がカウントからオミットされ、改めて昭和3年9月30日の例会から第50回としてスタートしている。なぜこの様なことになったのか、さらに調査が必要であるが、考えられることとして1)記載誤り、2)オミットの回数が地方会の呼称を用いなかった為か、換言すればこの期に何らかの本会の機構或いは性格に変更があったのか?となるが、1)は開催期日、場所が明記されているので、問題外として、2)の可能性が強い。ずっと以前大阪地方会も京都と同様集談会と称した一時期があったとの噂も耳にしていたので、先輩に正したところ明確な返事はなく、ある人は近畿集談会と混同しているのではないかと一蹴された。奇しくも京都集談会と相まって第1回近畿集談会が開催されたのが昭和2年11月6日である。またその設立に当たり京大松本教授、京都府立医大中川教授と共に阪大佐谷有吉教授の意向が強かったと聞いている。ちなみに本会初代会長櫻根教授が阪大を退官、佐谷教授が後任として着任したのは大正15年11月のことであり、この幻の重複4回のその期日に近接していることも附記しておく。(以上、引用終わり)

やはり佐野先生も幻の4回の存在に気づいておられたようだが、その原因はよくわからないと前置きして、大正末期に始まった近畿集談会との混同や、教授の交代が一因ではないかという説を挙げている。筆者は幻の4回が生じた原因が推定できるような資料を見つけるべく、150回記念の時に作成された櫻根太郎先生の資料を元に、改めて古い日皮会誌(当時の誌名は「皮膚科泌尿器科雑誌」)(Fig. 2, 3)や「皮膚科紀要」に記された原著の記載を見直して、一覧表の再構成を試みた。実はこれまでの記念大会ごとにまとめられてきた地方会の一覧表を通覧すると、A:第1回～第150回、B:第151回～第184回、C1:第185回～第197回、C2:第198回～第370回、D:第371回～第400回、(第401回以降は未整理)と異なる様式で構成されている。即ち、Aは、回数、開催日、開催場所、日皮会誌演題、日皮会誌抄録、紀要演題、Bは回数、開催日、当番校(会場)、文献、備考、C1は回数、開催日、主催施設、会場、C2はC1の主催施設の欄が主催者(施設)の表記となり、D:はC2に加えて備考、テーマ演題などの項目が長大で、横幅を1ページに収めることが困難な様式になっていた。そこで、できるだけ第1回から第500回までを共通の様式に統一し直すことにした。項目を、回数、開催日、主催施設、主催者、会場、文献、備考の7項目に定めるも、150回までは文献の部分には日皮会演題、日皮会抄録、紀要演題の3列があるため備考欄を割愛して横幅が1ページに収まるように配慮した。

文献の記載がなかった第148回～第150回、第182回～第500回に関しては、吹田の生命科学図書館と阪大皮膚科

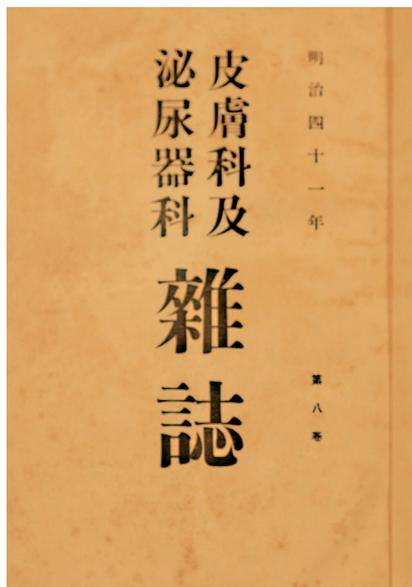


Fig. 2 大阪支会開設当時の日皮会誌の中表紙

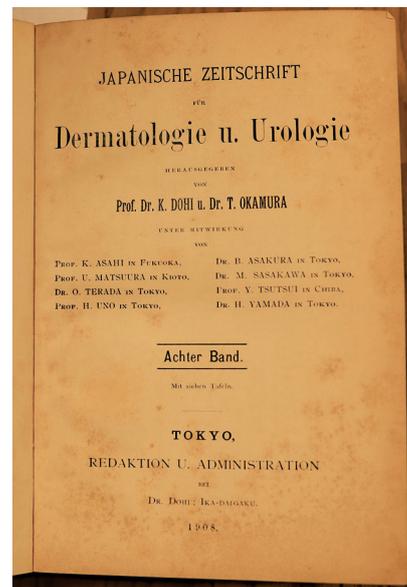


Fig. 3 大阪支会開設当時の英文中表紙

○日本皮膚科学會大阪支會
第一回通常會 (明治四十二年五月七日)

Dermato-Urologische Gesellschaft in Osaka.
I. Sitzung am 7. Mai 1909.

演 說 Vorträge.
人癩ノ家鼠接種試驗ニ就テ 八杉正義君
M. Yasugi: Über den Impfersuch der
Lepra bacillen auf den Haussäuse.

演者ハ先ツ鼠癩ノリテラツルヲ述ベ次テ人癩ノ結節ヲ取
リ家鼠ニ接種試驗(腹腔及皮下)ヲ行ヒ其成績ヲ報告セリ即
二十三頭ノ家鼠ニ人癩組織ノエムルジオンヲ接種シテ死後
其成績ヲ檢シタルニ毫モ本症ニ感染シタルノ兆候ヲ見ズ只
其注射局部ニ多數細菌ノ存在ヲ認メタルモノ僅カニ一頭ア
リシノミ此一頭ハ接種後三日ニシテ其接種局部ニ發赤ヲ來
シ四日ニシテ腫脹硬結ヲ起シタルモノニシテ本症感染ノ爲
起リタルモノトスレバ其時日アマリニ早キニ過グルガ如シ
故ニ實際感染シタルニ非ズシテ只其局部ニ異物性炎症ヲ起
シタルモノナルガ如シ由是觀之今日迄報告サレタルモノハ

— 四九 —

Fig. 4 第1回抄録の冒頭

医局の倉庫に所蔵されている「皮膚」, 「皮膚の科学」から抽出するとともに, 文献の記載があった期間についても, できるだけ原著文献に当たり漏れや記載ミスがないか再確認した。並行して事務局に保管されている第220回以降のプログラムもチェックした。その結果, 櫻根先生が空白としていた第1回 (Fig. 4), 第10回, 第13回の抄録を見つけ出し, 昭和2年の第52回の紀要の文献は10: 635ではなく, 10: 365が正しいこと, 紀要の8: 872は第47回のものでなく, 演題の内容から第48回のものであることなどが判明した。なお, 通し番号48番目の集会の開催日は日皮会誌の抄録では大正15年10月12日と記載されていたが, 紀要(8: 872)では同年12月12日となっており, 各々曜日を確認したところ, 前者は火曜日, 後者は日曜日であることから「紀要」の記載が正しいと判断した。(当時は日曜日に開催されていることが多い) このようにしてまとめた500回分を12頁にわたって掲載する (Table 1-1~1-12)。なお, Dの表が大きくなる要因であったテーマ演題や小林浩記念講演については別表 (Table 2/Table 3) を作成した。

再調査を通じて, 幻の4回の原因を特定するには至らなかったが, 謎の一端を垣間見た気がする。即ち, Table 1-1 に示すように第1回から第22回までは, 通し番号と文献に掲載された抄録の回数は一致していた。しかし, 通し番号24の大正4年6月4日の集会和通し番号25の大正5年2月29日の集会在同じ第25回として抄録が掲載された後, 大正6年の中断をはさんで, 大正7年以降の抄録には回数の標記がないままで「大阪支会」(大正9年6月の通し番号32回以降は「大阪地方会」と改称, 昭和初期に一時的に「大阪皮膚科泌尿器科集談会」と呼称)の抄録が掲載されていた。大正4年と5年の回数標記の重複は単純なミスと思われるが, それを確認・検証するための資料が, 大正6年の火災で焼失してしまい, 正確な回数が不明のまま昭和3年の通し番号52番目まで集会の歴史を刻んでしまったのではないと思われる。しかし, 「これから先, 回数がないままで歴史を刻むことはできない」と考えた新任教授の佐谷先生は, 開催月日が不明で, 抄録も見つからない4回分の集会を整理して, 通し番号53回を第49回と認定し, そこを起点として改めてカウントすることにしたのではないかというのが筆者の推理である。それを裏付けるデータとして, 櫻根太郎先生がまとめた一覧表の中で, 開催日が不明で抄録も見つかっていなかったのは, 通し番号10番, 15番, 23番, 26番の4回であった。しかし, 今回, 筆者は通し番号10番の抄録を見つけ開催日を確認する一方で, 反対に通し番号20番の抄録が九州支会の抄録であることを確認したため, これらを相殺し, 4回分を抹消すれば, 2023年12月の集会を第500回と認定してよいのではないかと結論に至った。ただし, 今後通し番号15, 23, 26の抄録が発見されればこの説は覆されるため, 真実は闇の中と言わざるを得ない。幻の4回についての話はこの辺にして, 500回全体を通して気づいた点を挙げてゆく。

まず, 第50回以降で, 開催日と主催施設が不明なのは, 第二次大戦中の昭和17年に開催された3回のうち2回目の一度のみであった。前後の開催パターンから主催は大阪帝国大で3月か4月に開催されたと思われるが, 抄録が見つからないため日付を特定することはできない。余談であるが, 大阪帝国大は, 戦時中の昭和18年3月

Table 1-1 第1回～第48回

回数	開催日	開催			日皮会誌 (誌名変遷)			紀要
		施設	主催者	会場	演題	抄録	回数	演題
1	明42 1909. 5. 7	大阪高医	櫻根 孝之進		9:459	9:609	第1回	
2	1909. 7.17	大阪高医	櫻根 孝之進			9:739	第2回	
3	1909. 9.18	大阪高医	櫻根 孝之進			9:920	第3回	
4	1909.11.13	大阪高医	櫻根 孝之進			10:34	第4回	
5	明43 1910. 1.15	大阪高医	櫻根 孝之進		10:45		第5回	
6	1910. 5.14	大阪高医	櫻根 孝之進			10:740	第6回	
7	1910. 7.23	大阪高医	櫻根 孝之進			10:806	第7回	
8	1910. 9.17	大阪高医	櫻根 孝之進			10:938	第8回	
9	1910.11.12	大阪高医	櫻根 孝之進			11:104	第9回	
10	明44 1911. 1.14	大阪高医	櫻根 孝之進			11:374	第10回	
11	1911. 5.13	大阪高医	櫻根 孝之進			11:913	第11回	
12	1911. 7.15	大阪高医	櫻根 孝之進			11:1116	第12回	
13	1911. 11.11	大阪高医	櫻根 孝之進			12:65	第13回	
14	明45 1912. 1.13	大阪高医	櫻根 孝之進			12:270	第14回	
15	1912. ?	大阪高医	櫻根 孝之進		未発見	未発見		
16	1912. 5.18	大阪高医	櫻根 孝之進			12:948	第16回	
17	1912. 7.13	大阪高医	櫻根 孝之進			12:1071	第17回	
18	大1 1912.11.16	大阪高医	櫻根 孝之進			13:89	第18回	
19	大2 1913. 9.28	大阪高医	櫻根 孝之進			13:1038	第19回	
20	1913.12.14	大阪高医	櫻根 孝之進			14:70	九州支会の抄録	
21	大3 1914. 5. 9	大阪高医	櫻根 孝之進			14:770	第21回	
22	1914.12.11	大阪高医	櫻根 孝之進			15:134	第22回	
23	大4 1915. ?	大阪高医	櫻根 孝之進		未発見	未発見		
24	1915. 6. 4	大阪高医	櫻根 孝之進		15:513	15:630	第25回	
25	大5 1916. 2. 9	府立大阪医大	櫻根 孝之進		16:170	16:437	第25回	
26	1916. ?	府立大阪医大	櫻根 孝之進		未発見	未発見	2017.2.19 阪大全焼	
27	大7 1918. 2.24	府立大阪医大	櫻根 孝之進	北浜,浪花亭	18:277	18:244	標記なし	再開
28	1918. 6.23	府立大阪医大	櫻根 孝之進			18:963	標記なし	
29	1918.12. 8	府立大阪医大	櫻根 孝之進			19:227	標記なし	
30	大8 1919. 5.18	大阪医大	櫻根 孝之進		19:602	19:805	標記なし	
31	1919.12. 7	大阪医大	櫻根 孝之進		20:76	20:236	標記なし	
32	大9 1920. 6.20	大阪医大	櫻根 孝之進			20:901	標記なし	
33	1920.11.21	大阪医大	櫻根 孝之進			21:281	欠号	
34	大10 1921. 6.29	大阪医大	櫻根 孝之進		21:595	21:1025	標記なし	
35	1921.10. 8	大阪医大	櫻根 孝之進			22:187	標記なし	
36	大11 1922. 1.29	大阪医大	櫻根 孝之進		22:209	22:715	標記なし	
37	1922. 6. 1	大阪医大	櫻根 孝之進		22:561	22:1029	標記なし	
38	1922.10.22	大阪医大	櫻根 孝之進			23:672	欠号	
39	大12 1923. 5. 6	大阪医大	櫻根 孝之進		23:476	24:89	標記なし	
40	1923.10. 7	大阪医大	櫻根 孝之進		23:921	24:701	標記なし	
41	大13 1924. 5. 4	大阪医大	櫻根 孝之進		24:521	24:1053	標記なし	
42	1924. 9.21	大阪医大	櫻根 孝之進		24:964	25:143	標記なし	
43	1924.12. 7	大阪医大	櫻根 孝之進		25:88	25:233	標記なし	
44	大14 1925. 5.17	大阪医大	櫻根 孝之進		25:546	25:688	標記なし	
45	1925. 9.20	大阪医大	櫻根 孝之進			26:372	標記なし	
46	1925.12. 6	大阪医大	櫻根 孝之進		26:75	26:792	標記なし	
47	大15 1926.2 .21	大阪医大	櫻根 孝之進		26:277	27:84	標記なし	
48	1926.12.12	大阪医大	櫻根 孝之進		27:100	27:794	標記なし	8:872

Table 1-2 第49回～第90回

回数	開催日	開催			日皮会誌(誌名変遷)			皮膚紀要
		施設	主催者	会場	演題	抄録	回数	演題
49	昭2 1927.1.30	大阪医大	佐谷 有吉		27:204	27:884	標記なし	9:149
50	1927.3.6	市民病院	久保山 高敏		27:369	28:124	標記なし	9:318
51	1927.6.5	大阪医大	佐谷 有吉			28:229	標記なし	9:590
52	1927.9.18	大阪医大	佐谷 有吉		27:907	28:451	標記なし	10:365
53 (49)	昭3 1928. 2.12	大阪医大	佐谷 有吉			28:758	第49回	11:218
50	1928. 9.30	大阪医大	佐谷 有吉		28:1061	29:67	第50回	
51	昭4 1929. 1.27	大阪医大	佐谷 有吉		29:294	29:714	以下一致	13:162
52	1929. 3. 3	大阪医大	佐谷 有吉			29:807		13:364
53	1929. 9.29	大阪医大	佐谷 有吉		29:1031	30:255		
54	昭5 1930. 1.19	大阪医大	佐谷 有吉		30:189	30:779		
55	1930. 9.28	大阪医大	佐谷 有吉		30:1102	31:294		16:413
56	昭6 1931. 2. 1	大阪医大	佐谷 有吉	(北講堂)	31:302	31:1183		17:164
57	1931. 3.22	大阪医大	佐谷 有吉	(西講堂)	31:585	31:1299		
58	1931. 9.27	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	31:1529	31:1514		18:294
59	昭7 1932. 1.24	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	32:189	32:562		19:130
60	1932. 3.27	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	32:483	33:94		19:291
61	1932. 9.25	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	32:1020	33:399		20:362
62	昭8 1933. 1.15	大阪帝国大	佐谷 有吉		33:272	33:833		21:154
63	1933. 3.19	大阪帝国大	佐谷 有吉	(北講堂)	33:610	34:550		21:325
64	1933.10.1	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	34:460	35:324		22:315
65	昭9 1934. 1.28	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	35:226	36:230		23:200
66	1934. 3.25	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	35:607	36:493		23:282
67	昭10 1935. 1.27	大阪帝国大	佐谷 有吉	(北講堂)	37:134	37:901		25:84
68	1935. 3.24	大阪帝国大	佐谷 有吉	(東講堂)		38:545		25:346
69	1935. 9.29	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	38:584	39:359		26:237
70	昭11 1936. 2. 2	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	39:252	40:691		27:79 27:148
71	1936. 3.28	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	39:522	41:184		27:223
72	1936. 9.27	大阪帝国大	佐谷 有吉	(微研講堂)	40:746	41:610		28:309
73	昭12 1937. 1.31	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	41:342	42:642		29:171
74	1937. 4.11	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)		43:339		29:326
75	1937. 9.26	大阪帝国大	佐谷 有吉		42:671			
76	昭13 1938. 1.30	大阪帝国大	佐谷 有吉		43:251			31:156
77	1938. 3.27	大阪帝国大	佐谷 有吉			45:131		31:425
78	1938.10. 2	大阪帝国大	佐谷 有吉		44:452	46:161		
79	昭14 1939. 1.29	大阪帝国大	佐谷 有吉			46:475		
80	1939. 4.29	大阪帝国大	佐谷 有吉		45:453	47:260		33:352
81	1939. 9.30	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	46:406	48:78		34:175
82	昭15 1940. 2. 3	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	47:179	48:361		35:109
83	1940. 3.23	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)		48:368		35:167
84	1940. 9.28	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	48:462	50:87		
85	昭16 1941. 2. 1	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	49:249 49:499	52:228		37:117
86	1941. 4.19	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)		54:122		
87	1941. 9.27	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	50:475			
88	昭17 1942. 2. 7	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	51:281			39:384
89	1942. 不明				未発見	未発見		
90	1942. 9.26	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	52:249			

Table 1-3 第91回～第140回

回数	開催日		開催			日皮会誌	皮膚	紀要
	和暦	西暦	施設	主催者	会場	演題	抄録/演題	演題
91	昭18	1943. 2. 6	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	53:87		41:346
92		1943. 4.24	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)			
93		1943. 9.25	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	54:179		
94	昭19	1944. 1.29	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)			
95		1944. 4.15	大阪帝国大	佐谷 有吉	(西講堂)	55:228		
96		1944. 9.30	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)	55:384		
97	昭20	1945. 2. 3	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)			
98		1945. 9.29	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)			
99	昭21	1946. 2. 2	大阪帝国大	佐谷 有吉	(四階会議室)			
100		1946. 5.18	大阪帝国大	谷村 忠保	(四階会議室)	59:34		
101		1946. 9.29	大阪帝国大	谷村 忠保	(四階会議室)			
102	昭22	1947. 2.26	大阪帝国大	谷村 忠保	(四階会議室)			
103		1947. 3.23	大阪帝国大	谷村 忠保	(四階会議室)			
104		1947. 9.28	大阪大	谷村 忠保	(四階会議室)			
105	昭23	1948. 1.25	大阪大	谷村 忠保	(二階会議室)			
106		1948. 3.28	大阪大	谷村 忠保	(四階会議室)			
107		1948. 9.26	大阪大	谷村 忠保	(四階会議室)			
108	昭24	1949. 1.30	大阪大	谷村 忠保	(二階会議室)			
109		1949. 3.12	大阪市医大	桜根 好之助				
110		1949. 9.25	大阪大	谷村 忠保	(四階会議室)	70:582		
111	昭25	1950. 1.29	大阪大	谷村 忠保	(二階会議室)	"		
112		1950. 3.26	大阪大	谷村 忠保	(二階会議室)	"		
113		1950.10. 1	大阪大	谷村 忠保	(西講堂)	70:583		
114	昭26	1951. 1.28	大阪大	谷村 忠保	(西講堂)	"		
115		1951. 3.18	大阪大	谷村 忠保	(四階会議室)	"		
116		1951. 9. 3	大阪大	谷村 忠保	(西講堂)	70:584		
117	昭27	1952. 1.20	大阪市医大	桜根 好之助		"		
118		1952. 3.23	大阪大	谷村 忠保	(西講堂)	70:585		
119		1952. 9.21	大阪女子医大	速水 伸三		"		
120	昭28	1953. 2. 1	大阪市大	桜根 好之助		70:586		
121		1953. 3.20	府立大阪	池田 四郎		"		
122		1953. 9.27	大阪大	谷村 忠保	(東講堂)	70:587		
123	昭29	1954. 1.23	大阪市医大	桜根 好之助		70:588		
124		1954. 9.19	大阪大	谷村 忠保	(東講堂)	"		
125	昭30	1955. 2. 6	大阪市大	桜根 好之助		70:589		
126		1955.10. 2	大阪大	教授不在	(四階講堂)	"		
127	昭31	1956. 2. 5	大阪市大	桜根 好之助		70:590		
128		1956.10. 7	大阪大	藤浪 得二	(四階講堂)		1:459演題	
129	昭32	1957. 2.17	大阪市大	桜根 好之助			1:460演題	
130		1957. 7.27	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)		1:461-464	
131		1957.10. 5	大阪医大	栗原 善夫			1:465-467	
132	昭33	1958. 1.25	和歌山医大	西村 長應			1:468-470	
133		1958. 3. 1	神戸医大	上月 実			1:471-471	
134		1958.10. 4	大阪市大	桜根 好之助			1:475-479	
135	昭34	1959. 1.31	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)		1:480-483	
136		1959. 3. 7	神戸医大	上月 実			1:484-488	
137		1959. 6.20	奈良医大	石川 昌義			1:489-493	
138		1959. 9.26	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)		1:494-498	
139		1959.11. 7	大阪市大	桜根 好之助			1:499-502	
140		1959.12.19	大阪医大	栗原 善夫			1:503-506	

Table 1-4 第141回～第184回

回数	開催日	主催施設	主催者	会場	抄録(皮膚)	備考
141	昭35 1960. 1.23	国立大阪	志水 靖博	(病院講堂)	2:160-164	
142	1960. 2.20	関西医大	大原 一枝	(講堂)	2:165-169	
143	1960. 4.23	大阪逓信	浅野 象一郎	(病院講堂)	2:283-291	
144	1960. 7. 9	大阪市大	櫻根 好之助	(基礎講堂)	2:591-601	
145	1960. 9.24	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)	2:602-610	
146	1960.11.19	大阪赤十字	正木 平蔵	(病院講堂)	3:88-95	
147	昭36 1961. 1.18	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)	3:154-163	
148	1961. 3.25	大阪市大	櫻根 好之助	(第一講堂)	3:323-327	
149	1961. 8. 5	不明	不明	(藤沢薬品)	4:51-57	
150	1961.11.3	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)	4:151-163	150回記念地方会
151	昭37 1962. 1. 2	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	4:164-171	
152	1962. 3.24	神戸医大	上月 実	(第一講堂)	4:250-257	
153	1962. 5.26	大阪大	藤浪 得二	(西講堂)	4:258-262	
臨時	1962. 6.11	大阪大	藤浪 得二	(田辺製薬)		Belisario博士講演会
154	1962. 8. 4	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	5:155-157	
155	1962.10.20	大阪医大	栗原 善夫	(東講堂)	5:71-75	
156	1962.12. 1	大阪警察	平松 信夫	(病院講堂)	5:76-81	
157	昭38 1963. 1.26	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	5:158-163	
158	1963. 3. 9	奈良医大	石川 昌義	(臨床講堂)	5:164-169	
159	1963. 5.18	大阪市大	斉藤 忠夫	(田辺製薬)	5:230-237	
160	1963. 7.20	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	5:283-290	
161	1963. 9.21	北野	原口 康彦	(病院講堂)	5:291-298	
162	1963.11.16	大阪大	藤浪 得二	(東講堂)	6:90-95	
163	昭39 1964. 1.25	関西医大	大原 一枝	(藤沢薬品)	6:210-216	テーマ:進行性指掌角皮症
164	1964. 3.28	大阪大	藤浪 得二	(西講堂)	6:313-318	テーマ:円形脱毛症
165	1964. 5.16	厚生年金	吉野 一正	(藤沢薬品)	6:409-415	テーマ:副腎皮質ホルモン療法
166	1964. 8. 8	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	6:416-424	
167	1964. 9.19	大阪医大	栗原 善夫	(藤沢薬品)	7:120-126	テーマ:尋常性瘰癧
168	1964.11.28	大阪大	藤浪 得二	(北講堂)	7:127-134	
169	昭40 1965. 1.23	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	7:291-299	
170	1965. 3.13	神戸医大	佐野 榮春	(第一講堂)	7:366-376	
171	1965. 4.24	奈良医大	坂本 邦樹	(臨床講堂)	7:377-382	テーマ:凍瘡
臨時	1965. 5.10	大阪大	藤浪 得二	(関電ビル)	7:310-316	Baer講演会
172	1965. 8. 7	大阪市大	斉藤 忠夫	(藤沢薬品)	7:395-441	テーマ:診断例
173	1965. 9.25	国立大阪	志水 靖博	(田辺製薬)	8:33-107	テーマ:乾癬
174	1965.12.11	和医大	西村 長應	(松下講堂)	8:158-163	テーマ:顔面色素沈着症
175	昭41 1966. 2.19	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	8:414-419	テーマ:血管炎
176	1966. 4.9	大阪医大	栗原 善夫	(東講堂)	8:420-426	
臨時	1966. 5.10	大阪大	藤浪 得二	(関電ビル)		Kierland講演会
177	1966. 7.30	関西医大	大原 一枝	(藤沢薬品)	8:494-500	
178	1966. 9.17	日生	細田 寿郎	(田辺製薬)	8:501-507	
179	1966.12.10	大阪市大	斉藤 忠夫	(藤沢薬品)	9:160-169	
180	昭42 1967. 2.18	大阪赤十字	大桑 裕	(藤沢薬品)	9:307-312	
臨時	1967. 4.10	大阪大	藤浪 得二	(関電ビル)		Pinkus講演会
181	1967. 6.24	国立大阪	志水 靖博	(住友化学)	9:520-527	
182	1967. 8. 5	大阪市大	斉藤 忠夫	(藤沢薬品)	9:616-618	テーマ:薬疹
183	1967.10. 7	奈良医大	坂本 邦樹	(同講堂)	9:619-621	
184	1967.12. 9	大阪大	藤浪 得二	(藤沢薬品)	10:106-114	テーマ:放射線皮膚炎

Table 1-5 第185回～第234回

回数	開催日	主催施設	主催者	会場	抄録(皮膚)	備考
185	昭43 1968. 2.17	大阪大	藤浪 得二	住友化学7階会議室	10:248-254	
186	1968. 4.20	神戸大	佐野 榮春	神戸大臨床講堂	10:413-419	
187	1968. 6.29	大阪赤十字	大桑 裕	藤沢薬品7階講堂	10:542-548	
188	1968. 8.10	大阪市大	斉藤 忠夫	藤沢薬品7階講堂	10:549-554	
189	1968.11.9	大阪医大	栗原 善夫	大阪医科大東講堂	11:128-135	
190	1968.12.14	大阪大	藤浪 得二	藤沢薬品7階講堂	11:136-142	
191	昭44 1969. 2.15	関西医大	大原 一枝	住友化学7階会議室	11:198-203	
192	1969. 6.14	和歌山医大	三島 豊	藤沢薬品7階講堂	11:338-344	
193	1969. 7.19	大阪通信	浅野 象一郎	住友化学7階会議室	11:648-652	
194	1969. 9.13	日生	細田 寿郎	藤沢薬品7階講堂	12:118-122	役員改選要望提出
195	1969.12.13	大阪大	藤浪 得二	藤沢薬品7階講堂	12:301-303	
196	昭45 1970. 2. 7	神戸大	佐野 榮春	神戸大第3講堂	12:304-308	
197	1970. 3.14	奈良医大	坂本 邦樹	奈良医大大講堂	12:504-508	
回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮膚)	備考
198	1970.12.12	斉藤 忠夫	大阪市大	市大第1臨床講堂	13:103-105	運営委員選出
199	昭46 1971. 3.13	坂本 邦樹	奈良医大	阪大北講堂	13:239-242	総会 (第1回)
200	1971. 7.25	志水 靖博	国立大阪	阪大8階第1・2講堂	13:243-252	
201	1971.12.11	斉藤 忠夫	大阪市大	市大地下1階臨床講堂	14:56-63	
202	昭47 1972. 2.19	藤浪 得二	大阪大	阪大病院7階第1講堂	14:120-124	総会
203	1972. 7.22	朝田 康夫	関西医大	関西医大病院	14:394-400	
204	1972.11.25	山田 瑞穂	大阪赤十字	大阪赤十字病院	15:337-344	診断例特集
205	昭48 1973. 1.27	馬場 正次	渡 辺	阪大病院	15:345-350	
206	1973. 3.17	小林 浩	神戸市	明治生命12階ホール	16:129-133	総会
207	1973. 6.16	三島 豊	和歌山医大	和歌山県民文化会館	16:134-140	
208	1973.11.10	安原 稔	大阪医大	大阪医大東講堂	16:275-281	
209	1973.12.15	三木 吉治	大阪大	阪大8階第2講堂	16:359-366	臨床研究
210	昭49 1974. 2.23	佐野 榮春	神戸大	神戸大医学部	16:367-372	総会
211	1974. 6.1	宗 義朗	神戸中央市民	神戸市医師会館	16:435-440	
212	1974. 8.31	橋本 誠一	住 友	新住友ビル11階	17:95-98	
213	1974.10.12	坂本 邦樹	奈良医大	阪大病院7階	17:171-173	
214	1974.12.22	佐野 榮春	大阪大	阪大病院第1講堂	17:174-182	研究S
215	昭50 1975. 2.15	安原 稔	大阪医大	大阪医大第1臨床講堂	17:183-187	総会
216	1975. 5.10	三島 豊	和歌山医大	和歌山県民文化会館	17:265-269	
217	1975. 7.12	須貝 哲郎	大阪回生	大阪回生病院	17:374-379	
218	1975. 9.13	山田 瑞穂	大阪赤十字	日赤会館	18:161-165	
219	1975.12.13	斎藤 忠夫	大阪市大	大阪市大医学部	18:234-238	研究S
220	昭51 1976. 2.14	佐野 榮春	大阪大	阪大第1講堂	18:239-244	総会
221	1976. 5. 8	中尾 正敏	大阪府立	大阪府立病院4階講堂	18:345-348	
222	1976. 7.10	宗 義朗	神戸中央市民	神戸市医師会館	18:443-447	
223	1976. 9.11	朝田 康夫	関西医大	関西医大専門学舎講堂	19:111-116	
224	1976.12.11	三島 豊	神戸大	神戸大病院第3講堂	19:250-254	研究S・教育
225	昭52 1977. 3.12	坂本 邦樹	奈良医大	阪大病院	19:306-312	総会
226	1977. 5.14	藤浪 得二	兵庫医大	兵庫医大臨床講堂	19:371-374	
227	1977. 7.30	森田 吉和	天理よろづ	天理よろづ相談所病院	19:374-377	
228	1977.10. 1	三島 豊	神戸大	神戸商工貿易センタービル	20:140-143	
229	1977.12.18	手塚 正	近畿大	近畿大医学部附属病院	20:311-316	研究S
230	昭53 1978. 2.25	佐野 榮春	大阪大	阪大病院	20:456-462	総会
231	1978. 4.22	宗 義朗	神戸中央市民	神戸市立中小企業会館	20:462-466	
232	1978. 7.22	朝田 康夫	関西医大	関西医大専門学舎講堂	21:74-79	
233	1978.10.28	早川 実	大阪赤十字	大阪日赤看護専門学校	21:79-84	
234	1978.12. 9	青木 和夫	和歌山医大	和歌山医大臨床講堂	21:142-145	全題研究・教育

Table 1-6 第235回～第278回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮膚)	備考
235	昭54 1979. 2.24	坂本 邦樹	奈良医大	阪大病院	21:395-401	総会
236	1979. 4.21	佐野 榮春	大阪大	阪大病院	21:401-406	
237	1979. 7.21	青木 敏之	府立羽曳野	羽曳野病院第一会議室	21:471-477	
238	1979.10. 6	池田 忠世	大阪済生会	新阪急ビル	22:180-185	
239	1979.12. 8	濱田 稔夫	大阪市大	大阪市大基礎大講堂	22:258-263	
240	昭55 1980. 2.16	坂本 邦樹	奈良医大	阪大病院	22:264-270	総会
241	1980. 5.10	須貝 哲郎	大阪回生	東洋ホテル2階	22:654-662	
242	1980. 7.12	相模 成一郎	兵庫医大	兵庫医科大	22:662-669	
243	1980.10.11	東 禹彦	市立堺	堺市民会館	23:268-275	
244	1980.12.13	安原 稔	大阪医大	大阪医大臨床第1講堂	23:338-344	
245	昭56 1981. 2.21	佐野 榮春	大阪大	阪大病院	23:344-352	総会
246	1981. 4.25	朝田 康夫	関西医大	資生堂大阪ビル	23:693-701	
247	1981. 6.27	早川 実	大阪赤十字	大阪赤十字病院	23:701-706	
248	1981. 8. 1	橋本 誠一	住友	資生堂大阪ビル	23:852-857	
249	1981.11.14	三島 豊	神戸大	神戸大臨床第5講堂	24:413-419	
250	1981.12.12	坂本 邦樹	大阪地方会	資生堂大阪ビル	24:420-429	
		〔第250回記念地方会〕				
251	昭57 1982. 2.13	濱田 稔夫	大阪市大	大阪市大基礎大講堂	24:430-436	総会
252	1982. 6. 5	佐野 榮春	大阪大	資生堂大阪ビル	24:815-819	
253	1982. 7.31	川津 智是	大阪通信	薬業年金会館	25:146-152	
254	1982.11.13	蔭山 亮市	大阪労災	薬業年金会館	25:306-312	
255	1982.12.18	朝田 康夫	関西医大	資生堂大阪ビル	25:377-387	
256	昭58 1983. 2.19	安原 稔	大阪医大	資生堂大阪ビル	25:788-793	総会
257	1983. 5.21	宗 義朗	神戸市中央市民	神戸市勤労会館大ホール	25:907-913	
258	1983. 7.30	青木 敏之	府立羽曳野	薬業年金会館	25:1016-1021	
259	1983.10. 1	坂本 邦樹	奈良医大	奈良県文化会館	26:175-187	
260	1983.12.17	相模 成一郎	兵庫医大	資生堂大阪ビル	26:469-473	
261	昭59 1984. 2.18	佐野 榮春	大阪大	資生堂大阪ビル	26:725-730	総会
262	1984. 4. 7	須貝 哲郎	大阪回生	資生堂大阪ビル	26:989-994	
263	1984. 5.19	佐野 榮春	大阪大	ロイヤルホテル	26:1174-1179	
264	1984. 7.28	三島 豊	神戸大	神戸大附属病院	27:193-197	
265	1984.10. 6	青木 和夫	和歌山医大	和歌山医大新病館	27:198-203	
266	1984.12.15	手塚 正	近畿大	資生堂大阪ビル	27:337-343	全題研究
267	昭60 1985. 2.16	坂本 邦樹	奈良医大	資生堂大阪ビル	27:920-925	総会
268	1985. 3.23	早川 実	大阪赤十字	大阪日赤松下講堂	27:926-930	
269	1985. 5.11	本間 真	国立姫路	大林ビル	27:931-935	
270	1985. 7.20	濱田 稔夫	大阪市大	資生堂大阪ビル	27:1121-1128	
271	1985.11. 3	三島 豊	神戸大	神戸国際会議場	28:472-484	
272	1985.12.21	吉川 邦彦	大阪大	資生堂大阪ビル	28:485-490	全題研究・教育
273	昭61 1986. 2.15	安原 稔	大阪医大	大正製薬大阪支店	28:491-496	総会
274	1986. 3.22	蔭山 亮市	大阪労災	資生堂大阪ビル	28:655-660	
275	1986. 7.12	相模 成一郎	兵庫医大	兵庫医科大	28:773-779	
276	1986. 9. 6	山本 桂三	大阪厚生年金	資生堂大阪ビル	28:843-849	
277	1986.11.15	朝田 康夫	関西医大	資生堂大阪ビル	29:132-139	
278	1986.12.20	須貝 哲郎	大阪回生	資生堂大阪ビル	29:355-362	全題研究・教育

Table 1-7 第279回～第326回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮膚)	備考	
279	昭62 1987. 2.14	吉川 邦彦	大阪大	資生堂大阪ビル	29:676-681	総会	
280	1987. 3.14	川津 智是	大阪通信	資生堂大阪ビル	29:682-687		
281	1987. 5.16	青木 和夫	和歌山医大	和歌山医大附属病院	29:919-924		
282	1987. 7.18	土井 顕	神戸中央市民	神戸市勤労会館大ホール	29:1001-1011		
283	1987. 9.12	手塚 正	近畿大	資生堂大阪ビル	30:103-109		教育
284	1987.12.12	坂本 邦樹	奈良医大	奈良県橿原文化会館	30:285-289		全題研究・教育
285	昭63 1988. 2.20	畑 清一郎	大阪労災	葉業年金会館	30:434-440	総会	
286	1988. 3.26	安原 稔	大阪医大	葉業年金会館	30:579-584		
287	1988. 5. 7	橋本 誠一	住友	資生堂大阪ビル	30:681-687		
288	1988. 9.17	三島 豊	神戸大	神戸市勤労会館大ホール	31:124-131		
289	1988.10.22	相模 成一郎	兵庫医大	資生堂大阪ビル	31:132-140		
290	1988.12.17	濱田 稔夫	大阪市大	資生堂大阪ビル	31:289-295		全題研究・教育
291	平1 1989. 2.18	吉川 邦彦	大阪大	資生堂大阪ビル	31:488-495	総会	
292	1989. 3.25	青木 和夫	和歌山医大	和歌山県農協会館	31:605-609		
293	1989. 6. 3	橋本 武則	国立大阪	資生堂大阪ビル	31:754-760		
294	1989. 7.29	手塚 正	近畿大	資生堂大阪ビル	32:127-131		
295	1989.10.28	早川 実	大阪赤十字	大阪赤十字病院松下講堂	32:132-137		
296	1989.12.16	三島 豊	神戸大	神戸商工会議所会館	32:317-322		全題研究・教育
297	平2 1990. 2.17	朝田 康夫	関西医大	資生堂大阪ビル	32:475-479	総会	
298	1990. 3.24	白井 利彦	奈良医大	奈良県立医科大	32:618-623		
299	1990. 6. 2	川津 友子	関西労災	尼崎市立労働福祉会館	32:698-704		
300	1990. 7. 6	吉川 邦彦	運営委員会	資生堂大阪ビル,都ホテル	34:1-234		(300回特集号)
	～7	〔第300回記地方会〕					
301	1990.11.16	手塚 正	近畿大	資生堂大阪,南海ウヰヰ-	33:240-246		全題研究・教育
	～17	〔近畿大学医学部皮膚科開講15周年記念〕					
302	1990.12.22	相模 成一郎	兵庫医大	山西福祉記念会館	33:247-252	全題研究・教育	
303	平3 1991. 2.16	河村 甚郎	北 野	資生堂大阪ビル	33:414-419	総会・教育	
304	1991. 3.30	吉川 邦彦	大阪大	資生堂大阪ビル	33:485-492		
305	1991. 6.22	玉置 昭治	淀川キリスト教	資生堂大阪ビル	33:626-633		
306	1991. 7.27	山田 徹太郎	市立豊中	資生堂大阪ビル	33:708-713		
307	1991.10. 5	濱田 稔夫	大阪市大	資生堂大阪ビル	34:139-147		
308	1991.12.14	安原 稔	大阪医大	日本生命中之島研修所	34:264-268		全題研究・教育
309	平4 1992. 2.15	東 禹彦	市立堺	南大阪地域地場産業振興C	34:409-416	総会	
310	1992. 3.28	朝田 康夫	関西医大	資生堂大阪ビル	34:560-566		
311	1992. 5. 9	三島 豊	神戸大	神戸国際会議場	34:639-650		
		〔三島豊教授退官記念学会〕					
312	1992. 7.18	鈴木 伸典	大阪市立城北市民	資生堂大阪ビル	34:863-871		
313	1992. 9.26	青木 和夫	和歌山医大	和歌山県JA会館	35:212-219		
314	1992.12.19	白井 利彦	奈良医大	奈良県橿原文化会館	35:312-314	全題研究・教育	
315	平5 1993. 2.13	奥村 睦子	箕面市立	資生堂大阪ビル	35:431-439	総会	
316	1993. 3.27	相模 成一郎	兵庫医大	兵庫医科大	35:590-597		
317	1993. 5. 8	谷垣 武彦	近畿中央(伊丹)	大阪科学技術センター	35:677-683		
318	1993. 7.17	市橋 正光	神戸大	神戸商工会議所	35:761-769		
319	1993. 9.11	青木 敏之	府立羽曳野	葉業年金会館	36:91-101		
320	1993.12.18	吉川 邦彦	大阪大	千里ライフサイエンスC	36:240-245		全題研究・教育
321	平6 1994. 2.12	手塚 正	近畿大	近畿大医学部大ホール	36:465-473	総会	
322	1994. 3.26	朝田 康夫	関西医大	大阪コンボホール	36:583-592		
		〔朝田康夫教授退官記念学会〕					
323	1994. 5.14	喜多野 征夫	兵庫医大	兵庫医科大学3-3講義室	36:729-740		テーマ
324	1994. 7.16	川津 智是	大阪通信	オーバルホール	36:905-916		1回小林・テーマ
325	1994. 9.17	清金 公裕	大阪医大	大阪YMCA国際文化C	37:204-214		テーマ
326	1994.12.17	松中 成浩	和歌山医大	和歌山市民会館小ホール	37:304-314	テーマ	

Table 1-8 第327回～第374回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮膚)	備考
327	平7 1995. 2.18	小塚 雄民	国立大阪	千里ライフサイエンスC	37:403-411	総会・テーマ
328	1995. 3.25	白井 利彦	奈良医大	奈良県立医科大大講堂	37:491-498	教育・テーマ
329	1995. 5.13	手塚 正	近畿大	近畿大医学部大講堂	37:683-691	テーマ
330	1995. 7.15	早川 實	大阪赤十字	大阪赤十字病院松下講堂	37:819-826	2回小林
331	1995.10.14	庄司 昭伸	大阪回生	オーバルホール	38:160-167	テーマ
332	1995.12.16	堀尾 武	関西医大	日本綿業倶楽部	38:286-291	教育・テーマ
333	平8 1996. 2.24	岡田 奈津子	大阪厚生年金	大阪厚生年金会館中ホール	38:395-401	総会・テーマ
334	1996. 4. 6	石井 正光	大阪市大	大阪市大病院5階講堂	38:469-477	教育・テーマ
335	1996. 5.18	佐山 重敏	天理よろづ	天理よろづ相談所7階講堂	38:549-559	テーマ
336	1996. 7. 6	市橋 正光	神戸大	神戸市医師会館本館	38:632-639	テーマ
337	1996. 9. 7	東 禹彦	市立堺	堺市総合福祉会館	39:111-122	教育・テーマ
338	1996.12.14	吉川 邦彦	大阪大	日本綿業倶楽部	39:199-207	テーマ
339	平9 1997. 2.22	熊野 公子	兵庫県立成人病C	兵庫県立看護大学講堂	39:379-389	総会・3回小林
340	1997. 3.29	松中 成浩	和歌山医大	和医大病院臨床大講堂	39:458-466	テーマ
341	1997. 5.17	奥村 睦子	関西労災	尼崎リサーチセンター	39:545-553	テーマ
342	1997. 7.19	清金 公裕	大阪医大	大阪医科大臨床第1講堂	39:684-691	テーマ
343	1997. 9.13	清水 良輔	神戸労災	神戸市医師会館	40:87-98	テーマ
344	1997.12.13	喜多野 征夫	兵庫医大	兵庫医科大	40:201-208	教育・テーマ
345	平10 1998. 2.14	鈴木 伸典	大阪市立総合医療C	大阪市立総合医療C	40:321-326	総会・4回小林
346	1998. 3.28	白井 利彦	奈良医大	奈良県社会福祉総合C	40:421-426	テーマ
347	1998. 5.16	井上 千津子	大手前	テイジンホール	40:531-537	テーマ
348	1998. 7. 4	手塚 正	近畿大	薬業年金会館	40:619-623	教育
349	1998. 9.19	堀口 裕治	大阪赤十字	大阪赤十字病院松下講堂	41:115-120	テーマ
350	1998.12.12	堀尾 武	関西医大	オーバルホール	41:293-301	テーマ
351	平11 1999. 2.13	谷 昌寛	西神戸医療C	シーガルホール	41:393-400	総会・5回小林
352	1999. 3.20	松中 成浩	和歌山医大 〔松中成浩教授退官記念学会〕	和歌山ビッグ愛	41:497-503	テーマ
353	1999. 6.12	大郷 典子	神戸中央市民	神戸市勤労会館	41:639-645	
354	1999. 7.24	石井 正光	大阪市大	大阪市大医学部4F大講堂	41:719-724	教育・テーマ
355	1999.10. 2	大和谷 淑子	箕面市立	箕面市立メイプルホール	42:121-128	テーマ
356	1999.12. 4	市橋 正光	神戸大	神戸医師会館4階大ホール	42:285-292	テーマ
357	平12 2000. 2. 5	吉川 邦彦	大阪大	大阪大学リサーチセンター3F	42:393-398	総会・6回小林
358	2000. 3.25	秋元 隆道	大阪府立	ドーンセンター7F	42:465-475	
359	2000. 5.20	清金 公裕	大阪医大	大阪医科大臨床第1講堂	42:539-546	テーマ
360	2000. 7.15	黒川 一郎	兵庫県立塚口	アカイホール・オクト	42:607-613	テーマ
361	2000.10.14	古川 福実	和歌山医大	和歌山県立医科大学講堂	43:75-80	教育
362	2000.12. 9	玉置 昭治	淀川キリスト教	テイジンホール	43:139-147	テーマ
363	平13 2001. 2. 3	喜多野 征夫	兵庫医大	兵庫医科大3 - 3講義室	43:185-190	総会・7回小林
364	2001. 3.31	谷垣 武彦	大阪労災	大阪科学技術センター8F	43:293-301	テーマ
365	2001. 6.16	宮川 幸子	奈良医大	奈良県福原文化会館	43:411-415	教育・テーマ
366	2001. 7.21	園田 早苗	市立池田	大阪科学技術センター8F	43:416-422	テーマ
367	2001.10. 6	手塚 正	近畿大	近畿大医学部講堂	皮膚1:67-72	8回小林
368	2001.12. 1	足立 厚子	兵庫県立加古川	神戸市医師会館本館4F	1:145-153	テーマ
369	平14 2002. 2. 2	堀尾 武	関西医大	エルおおさかエルシアター	1:245-251	総会
370	2002. 3.23	田中 俊宏	天理よろづ相談所	天理よろづ相談所7階講堂	1:295-300	
371	2002. 4.27	石井 正光	大阪市大	大阪市大学舎4F大講義室	1:363-368	教育
372	2002. 7.13	西嶋 攝子	関西医大附属香里	大阪国際会議場	1:431-434	
373	2002. 9.21	市橋 正光	神戸大	シーガルホール	1:435-441	9回小林・テーマ
374	2002.12.14	藤本 圭一	住友	大阪科学技術センター	2:63-69	

Table 1-9 第375回～第410回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮科学)	備考
375	平15 2003. 2. 9	吉川 邦彦	大阪大	大阪国際会議場	2:135-148	
		〔吉川邦彦教授退官記念学会〕				
376	2003. 3.29	堀 啓一郎	国立神戸	兵庫県民会館けんみんホール	2:232-237	総会
		〔市橋正光教授退官記念特別講演〕				
377	2003. 5.10	喜多野 征夫	兵庫医大	兵庫医科大学3-3講義室	2:365-370	
		〔喜多野征夫教授退職記念学会〕				
378	2003. 7.19	福本 隆也	県立奈良	奈良県文化会館小ホール	2:471-475	10回小林
379	2003. 9. 6	古川 福実	和歌山医大	和歌山県立医科大学講堂	2:563-567	教育
380	2003.12. 6	東山 真里	日生	大阪科学技術センター	3:108-115	テーマ
		古川 福実	(和歌山同時開催)	白良荘グランドホテル	3:115-117	
381	平16 2004. 2. 7	清金 公裕	大阪医大	千里ライフサイエンスC5	3:243-250	総会
382	2004. 3.28	手塚 正	近畿大	大阪国際会議場	3:323-331	テーマ
		〔手塚正教授退官記念学会〕				
383	2004. 5. 8	原田 晋	三田市民	アルカイクホール・杣	3:418-424	テーマ
384	2004. 7. 3	宮川 幸子	奈良医大	奈良県文化会館小ホール	3:529-534	11回小林
385	2004. 9.25	土居 敏明	大阪労災	大阪科学技術センター	3:652-657	初PCレベル
		古川 福実	(和歌山同時開催)	アパローム紀の国	3:658-660	
386	2004.12.11	堀尾 武	関西医大	守口文化C エナジーホール	4:72-79	教育
387	平17 2005. 2.12	調 裕次	NTT西日本大阪	朝日生命ホール	4:211-219	総会・テーマ
388	2005. 3.26	石井 正光	大阪市大	大阪市大学舎4F大講義室	4:317-326	テーマ
389	2005. 5.28	鈴木 伸典	大阪市立総合医療C	大阪市立総合医療C3階	4:407-413	
390	2005. 7.23	錦織 千佳子	神戸大	神戸市医師会館4階ホール	4:499-505	12回小林
391	2005.10. 1	片岡 葉子	呼吸器アレルギー医療C	クレオ大阪西	4:617-624	テーマ
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	4:625-627	
392	2005.12.10	片山 一朗	大阪大	千里ライフサイエンスC5	5:91-99	教育
393	平18 2006. 2. 4	山田 秀和	近畿大奈良	大阪科学技術センター8階	5:207-211	総会
394	2006. 3.25	清金 公裕	大阪医大	大阪科学技術センター8階	5:253-259	
395	2006. 5.13	戸田 憲一	北野	クレオ大阪西	5:317-324	
396	2006. 7.29	古川 福実	和歌山医大	浪切ホール 特別会議室	5:367-374	13回小林
397	2006. 9.23	猿食 浩子	東大阪市立総合	テイジンホール	5:473-479	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	アパローム紀の国	5:480-484	
398	2006.12. 9	山西 清文	兵庫医大	兵庫医大3号館講義室	6:55-63	教育
399	平19 2007. 2. 3	熊野 公子	兵庫県立成人病C	兵庫県医師会館2階	6:217-225	総会・テーマ
400	2007. 3.17	宮川 幸子	奈良県立医大	リーガロイヤルホテル大阪	6:316-326	
		〔宮川幸子教授退官記念学会〕				
401	2007. 5.26	大郷 典子	神戸市立医療C中央市民	アルカイクホール・ミニ	6:392-399	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	6:400-403	
402	2007. 7.29	土居 敏明	大阪労災	大阪国際会議場	6:519-529	100回近畿
403	2007. 9.29	川田 暁	近畿大	大阪科学技術センター8階	6:659-664	14回小林
404	2007.12. 1	立花 隆夫	天理よろづ相談所	奈良市ならまちC2階	7:75-84	
405	平20 2008.2.16	岡本 祐之	関西医大	大阪科学技術センター8階	7:275-281	総会・教育
406	2008.3.29	羽白 誠	大阪警察	朝日生命ホール	7:365-375	
407	2008.5.31	石井 正光	大阪市立大	大阪市大学舎4F大講義室	7:499-505	15回小林
408	2008.7.13	谷 昌寛	西神戸医療C	兵庫県医師会館	7:616-627	101回近畿
409	2008.9.20	中川 浩一	済生会富田林	朝日生命ホール	7:712-720	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	7:721-723	
410	2008.12.13	錦織 千佳子	神戸大	朝日生命ホール	8:88-95	教育

Table 1-10 第411回～第452回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮科学)	備考
411	平21 2009.2.14	弓立 達夫	近畿大堺	朝日生命ホール	8:249-256	総会
412	2009.3.21	片山 一朗	大阪大	朝日生命ホール	8:361-370	研究S
413	2009.5.16	大畑 千佳	市立池田	朝日生命ホール	8:441-449	テーマ
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	8:450-453	
414	2009.7.5	古田 未征	草津総合	メルパルク京都	8:567-576	102回近畿
415	2009.10.3	森脇 真一	大阪医大	朝日生命ホール	8:805-811	16回小林
416	2009.12.12	古川 福実	和歌山医大	朝日生命ホール	9:95-102	教育
417	平22 2010.2.13	堀口 裕治	大阪赤十字	朝日生命ホール	9:180-187	総会
418	2010.3.13	山西 清文	兵庫医大	朝日生命ホール	9:291-298	
419	2010.5.22	池上 隆太	大阪厚生年金	クレオ大阪東	9:396-401	テーマ
		古川 福実	(和歌山同時開催)	アパローム紀の国	9:402-405	
420	2010.7.4	東山 真里	日生	コスモスクエア国際交流C	9:482-494	103回近畿
421	2010.9.18	浅田 秀夫	奈良医大	朝日生命ホール	9:568-574	17回小林
422	2010.12.18	足立 厚子	兵庫県立加古川医療C	朝日生命ホール	10:81-90	教育
423	平23 2011.2.19	庄田 裕紀子	住友	朝日生命ホール	10:183-190	総会・テーマ
424	2011.3.19	川田 暁	近畿大	朝日生命ホール	10:234-239	
425	2011.5.21	皿山 泰子	神戸労災	朝日生命ホール	10:329-337	テーマ
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	10:338-342	
426	2011.7.10	戸田 憲一	北野	オーバルホール	10:449-459	104回近畿
427	2011.10.1	岡本 祐之	関西医大	朝日生命ホール	10:526-532	教育
428	2011.12.3	工藤 比等志	兵庫県立尼崎	大阪科学技術センター 8階	11:103-108	18回小林
429	平24 2012.2.18	石井 正光	大阪市大	朝日生命ホール	11:179-185	総会
430	2012.3.24	錦織 千佳子	神戸大	大阪科学技術センター 8階	11:224-232	研究S
431	2012.5.19	倉知 貴志郎	市立豊中	朝日生命ホール	11:323-328	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	11:329-333	
432	2012.7.22	十一 英子	国立病院京都医療C	メルパルク京都	11:436-446	105回近畿
433	2012.9.15	片山 一朗	大阪大	朝日生命ホール	11:552-558	19回小林
434	2012.12.15	森脇 真一	大阪医大	朝日生命ホール	12:44-52	教育
435	平25 2013.2.9	堀川 達弥	西神戸医療C	朝日生命ホール	12:138-145	総会
436	2013.3.23	古川 福実	和歌山医大	朝日生命ホール	12:224-232	研究S
437	2013.5.18	山田 秀和	近畿大奈良	朝日生命ホール	12:306-312	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	12:313-317	
438	2013.7.21	國行 秀一	大阪市立総合医療C	大阪市立総合医療C	12:348-356	106回近畿
439	2013.10.12	山西 清文	兵庫医大	朝日生命ホール	12:450-455	20回小林
440	2013.12.7	浅田 秀夫	奈良医大	大阪科学技術センター8階	13:44-52	教育
441	平26 2014.2.15	村田 洋三	兵庫県立がんC	朝日生命ホール	13:118-126	総会・テーマ
442	2014.3.29	川田 暁	近畿大	朝日生命ホール	13:194-201	研究S
443	2014.5.24	田所 丈嗣	国立大阪	大阪科学技術センター8階	13:290-295	
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山JAビル	13:296-300	
444	2014.7.13	中川 浩一	済生会富田林	オーバルホール	13:395-405	107回近畿
445	2014.10.4	鶴田 大輔	大阪市大	朝日生命ホール	13:439-444	21回小林
446	2014.12.6	立花 隆夫	大阪赤十字	大阪科学技術センター8階	14:22-31	教育
447	平27 2015.2.7	岡本 祐之	関西医大	朝日生命ホール	14:89-96	総会
448	2015.3.28	錦織 千佳子	神戸大	大阪科学技術センター	14:130-137	研究S
449	2015.5.23	加藤 敦子	大阪回生	大阪科学技術センター	14:188-194	病院紹介
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	14:195-198	
450	2015.7.12	池田 佳弘	京都第二赤十字	メルパルク京都	14:259-268	108回近畿
451	2015.10.3	片山 一朗	大阪大	朝日生命ホール	14:417-423	教育
452	2015.12.5	是枝 哲	天理よろづ相談所	大阪科学技術センター8階	15:23-31	22回小林

Table 1-11 第453回～第488回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮科学)	備考
453	平28 2016.2.6	森脇 真一	大阪医大	大阪医科大学臨床第1講堂	15:85-92	総会
454	2016.3.26	古川 福実	和歌山医大	朝日生命ホール	15:135-142	研究S
455	2016.5.21	爲政 大幾	国立病院大阪医療C	朝日生命ホール	15:308-313	病院紹介
		古川 福実	(和歌山同時開催)	和歌山ビッグ愛	15:314-316	
456	2016.7.10	足立 厚子	兵庫県立加古川医療C	兵庫県医師会館	15:351-361	109回近畿
457	2016.10.8	山西 清文	兵庫医大	朝日生命ホール	15:613-517	教育
458	2016.12.3	吉良 正浩	市立池田	大阪科学技術センター8階	16:93-100	23回小林
459	平29 2017.2.4	浅田 秀夫	奈良医大	朝日生命ホール	16:155-160	総会
460	2017.3.11	古川 福実	和歌山医大	ホテルグランヴィア和歌山	16:221-232	
	~12	(古川福実教授退職記念地方会)				
461	2017.5.27	片岡 葉子	呼吸器アレルギー医療C	大阪科学技術センター8階	16:274-280	病院紹介
		教授不在	(和歌山同時開催)	ロイネットホテル和歌山	16:281-285	
462	2017.7.9	山田 秀和	近畿大奈良	オーバルホール	16:372-282	110回近畿
463	2017.9.30	岡本 祐之	関西医大	朝日生命ホール	16:441-447	教育
464	2017.12.2	中島 武之	府立急性期・総合医療C	大阪科学技術センター8階	17:110-118	24回小林
465	平30 2018.2.3	鶴田 大輔	大阪市大	朝日生命ホール	17:119-128	総会
466	2018.3.10	片山 一朗	大阪大	大阪国際会議場	17:216-235	
	~11	(片山一朗教授退官記念地方会)				
467	2018.5.12	竹原 友貴	JCHO大阪	朝日生命ホール	17:284-288	教育・病院紹介
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	和歌山県JAビル	17:289-292	教育
468	2018.7.22	吉川 義顕	大津赤十字	メルパルク京都	17:354-363	111回近畿
469	2018.9.29	川田 暁	近畿大	朝日生命ホール	17:364-368	教育
470	2018.12.8	長野 徹	神戸市立医療C	朝日生命ホール	17:369-376	25回小林
471	平31 2019.2.9	錦織 千佳子	神戸大	朝日生命ホール	18:48-56	総会
472	2019.3.9	森脇 真一	大阪医大	朝日生命ホール	18:122-127	教育
473	令1 2019.5.18	深井 和吉	大阪市立総合医療C	大阪市立総合医療C	18:182-186	教育
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	和歌山県JAビル	18:187-189	教育
474	2019.7.14	立花 隆夫	大阪赤十字	グランフロント大阪	18:241-249	112回近畿
475	2019.10.26	山西 清文	兵庫医大	朝日生命ホール	18:313-319	教育
476	2019.12.7	高井 利浩	兵庫県立がんC	大阪科学技術センター8階	18:366-374	26回小林
477	令2 2020.2.1	浅田 秀夫	奈良医大	朝日生命ホール	19:47-55	総会・教育
478	2020.3.7	川田 暁	近畿大	淀屋橋サンスカイルーム8C	19:144-146	7題のみ(Cov)
(479)	2020.5.23	山田 秀和	近畿大奈良	大阪科学技術センター8階	482回ハ	延期
480	2020.7.19	竹内 聖二	国立病院神戸医療C	神戸大総合研究拠点+WEB	19:208-212	113回近畿
479	2020.9.26	谷崎 英昭	関西医大	WEB	19:263-268	教育
481	2020.12.5	小澤 健太郎	国立病院大阪医療C	WEB	20:46-51	
482	2020.12.19	山田 秀和	近畿大奈良	WEB	20:52-55	教育
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	合同WEB	20:56-58	教育
483	令3 2021.2.6	鶴田 大輔	大阪市大	WEB	20:152-156	総会27回小林
484	2021.3.13	錦織 千佳子	神戸大	ポートピアホテル+WEB	20:251-265	
	~14	(錦織千佳子教授退職記念地方会)				
485	2021.5.18	清原 隆宏	関西医大総合医療C	WEB	20:361-363	教育
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	合同WEB	同上	
486	2020.7.11	松井 美萌	武田総合	メルパルク京都+WEB	20:372-378	114回近畿
487	2021.10.2	藤本 学	大阪大	WEB	21:53-60	教育
488	2021.12.11	庄田 裕紀子	住友	WEB	21:61-67	28回小林

Table 1-12 第489回～第500回

回数	開催日	主催者	主催施設	会場	抄録(皮科学)	備考
489	令4 2022. 2. 5	森脇 真一	大阪医大	WEB	21:144-150	総会
490	2022. 3. 5	神人 正寿	和歌山医大	WEB	21:251-256	教育
491	2022. 5.21	加藤 敦子	大阪回生	WEB	21-257-263	教育
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	合同WEB	同上	
492	2022. 7.10	爲政 大幾	大阪国際がんC	オーバルホール+WEB	21:342-351	115回近畿
493	2022. 9.24	金澤 伸雄	兵庫医大	WEB	21:64-70	教育
494	2022.12.10	調 裕次	第二大阪警察	WEB	22:71-77	29回小林・SS
495	令5 2023. 2. 4	浅田 秀夫	奈良医大	WEB	22:152-158	総会・SS
496	2023. 3.11	大塚 篤司	近畿大	WEB	22:164-171	教育・SS
497	2023. 5.20	横見 明典	市立豊中	WEB	22:243-248	教育・SS
		神人 正寿	(和歌山同時開催)	一部独自WEB	22:249-251	
498	2023. 7.30	猿喰 浩子	市立東大阪	オーバルホール+WEB	22:261-270	116回近畿
499	2023. 9. 9	鶴田 大輔	大阪公立大	朝日生命ホール+WEB	22:322-328	教育・SS
500	2023.12. 3	藤本 学	運営委員会 〔第500回記念地方会〕	ヒルトン大阪(現地開催)	23:37-48	
501	2024. 2. 3	谷崎 英昭	関西医大	朝日生命ホール+WEB		30回小林・SS
502	2024. 3. 2	久保 亮治	神戸大	オービックホール+WEB		教育・研究S・SS

★ 備考欄の説明

略記	説明
教育	教育講演
全題研究	研究地方会
研究S	研究セッション
テーマ	テーマ演題
○回小林	小林浩記念講演
○回近畿	近畿皮膚科集談会
SS	スポンサードセミナー

★ 日皮会誌の誌名変遷

雑誌名	巻	年度
皮膚病及泌尿器学雑誌	1	1901(明34)
皮膚科及泌尿器科雑誌	2～30	1902(明35)～1930(昭5)
皮膚科泌尿器科雑誌	31～50	1931(昭6)～1941(昭16)
皮膚科性病科雑誌	51～66	1942(昭17)～1956(昭31)
日本皮膚科学雑誌	67～	1957(昭32)～

★ 阪大医学部とその前身校年度別一覧

名称	発足年月日
大阪府立医学校	1880(明治13)年3月
大阪府立高等医学校	1903(明治36)年1月10日(皮華科設置)
大阪府立医科大学	1915(大正4)年10月28日
大阪医科大学	1919(大正8)年11月22日
大阪帝国大学医学部	1931(昭和6)年5月1日
大阪大学医学部	1947(昭和22)年10月1日

Table 2 テーマ演題一覧 (323回～441回)

回数	テーマ演題	回数	テーマ演題
323	熱ショック (ストレス) タンパク質	350	光線過敏症
324	皮膚科における赤外線サーモグラフィ	351	食物による1型アレルギー
325	悪性皮膚腫瘍の免疫組織化学的研究	352	皮膚科における局注療法
326	理論に基づいた新しい治療について	354	循環障害と皮膚疾患
327	下肢静脈瘤の硬化療法	355	医療行為による皮膚障害
328	膠原病と自己抗体	356	皮膚疾患を誘発するウイルス感染
329	皮膚病と遺伝子発現	359	転移性皮膚癌の症例と研究
331	光線療法	360	皮膚潰瘍の治療
332	接着分子	362	皮膚科医の知識が救急医療で役立つとき
333	レチノイド	364	乾癬性関節炎
334	漢方治療	365	膠原病
335	リエゾン皮膚科学 (他科とのかかわりのなかで生きる皮膚科)	366	小児の皮膚疾患
		368	血液・網内系疾患と皮膚
336	UVB療法とPUVA療法	373	物理性蕁麻疹
337	薬物アレルギー	380	乾癬
338	新しい治療の試み	382	樹枝状細胞
339	ハンセン病	383	興味深いタイプの蕁麻疹またはアカイラチー
340	ありふれた皮疹の診断	387	膠原病類縁疾患
341	内臓悪性腫瘍と皮膚	388	水疱症
342	皮膚付属腫瘍 - 症例と研究 -	391	誤診症例に学ぶ
343	アトピー性皮膚炎の心身症的側面	399	乳房外Paget病
344	新しい検査	413	皮膚付属器腫瘍
345	「TEN」の臨床	419	循環障害と皮膚疾患
346	水疱症	423	リンパ腫
347	一般病院、開業医で行える新しい治療法	425	難治性皮膚潰瘍患
349	自己免疫性水疱症の治療	441	悪性黒色腫

27～29日と終戦直後の昭22年4月1～2日に日皮会総会を主催している。昭17年7月4日と昭22年6月1日には春の近畿集談会も主催しているため、昭17年は、2月地方会、3月総会、4月地方会、6月集談会、昭22年は2月地方会、3月地方会、4月総会、7月集談会と目まぐるしく学会を主催していたことになる。

次に、全体を通じて主催施設が不明で推定もできないのは、昭和36年に開かれた第149回の一度のみで、会場として(藤沢薬品)と記載されただけで、前後の主催施設に法則性が見当たらない。櫻根先生が150回分をまとめた時点では、記憶に新し過ぎてついうっかり記載漏れとなったのであろうが残念である。

さらに、主催者名の表記がない第197回までのうち大学担当回の主催者については、集談会の歴史探訪時に作成した「近畿圏12大学歴代教授の在任期間」を活用してその空白を埋めることができた。しかし、市中病院が担当した回に関しては、当時のことを裏付ける病院史などの資料の提供を要した。具体的には、昭和2年：大阪市民、昭和28年：府立大阪、昭和35年：大阪通信、大阪赤十字、昭和37年：大阪警察、昭和38年：北野、昭和39年：大阪厚生年金、昭和41年：日生、昭和42年：大阪赤十字、昭和43年：大阪赤十字、昭和44年大阪通信の11回分(8施設)である。なお、昭和2年の大阪市民については、「大阪大学医学伝習百年史」の臨床講座・診療部門編の217頁に、大正14年10月に新設された大阪市民病院(大阪公立大学の前身)の初代皮泌尿科医長として阪大から赴任された久保山 高敏先生に関する詳細な記載が見つかり確定した。(12大学歴代教授の一覧表では、大阪公立大学の起源を、昭和19年に設置された大阪市民医学専門学校としたが、大正14年10月に新設された大阪市民

Table 3 小林浩記念講演一覧

回	講演日	演題	講演者	所属
1	1994.7.16	脳と働きとエタノール	和田 博	大阪大学名誉教授 (薬理学)
2	1995.7.15	阪神大震災と我が国の地震予知の現状について	住友 則彦	京大防災研究所附属地震予知研究センター センター長
3	1997.2.22	らいの薬物療法をかえりみて	原田 禹雄	元国立療養所邑久光明園園長
4	1998.2.14	防蟻剤・可塑剤による室内空気汚染と新築症候群	植村 振作	大阪大学大学院理学研究科 高分子科学専攻
5	1999.2.13	生物の非対称性	濱田 博司	大阪大学細胞生体工学センター 遺伝情報システム研究部門・教授
6	2000.2.5	東洋医学における皮膚	加地 伸行	大阪大学名誉教授
7	2001.2.3	遺伝子治療の将来	金田 安史	大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学講座教授
8	2001.10.6	サルコイドーシスの病因論	江石 義信	東京医科歯科大学 病因・病理学・助教授
9	2002.9.21	皮膚科領域のサプリメント	渡邊 昌	東京農業大学応用生物科学部栄養科学科・教授
10	2003.12.6	時計遺伝子と生体機能	岡村 均	神戸大分子細胞生物学講座分子脳科学分野・教授
11	2004.7.3	膠原病診療における自己抗体の意義	三森 経世	京大臨床免疫学講座・教授
12	2005.7.23	Notchシグナル系による色素細胞の維持機構	大沢 匡毅	理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター幹細胞研究グループ
13	2006.7.29	痛みと痒みをめぐる最近の話題	仙波 恵美子	和歌山医大第二解剖学・教授
14	2007.9.29	リンパ球とケモカイン	義江 修	近畿大学細菌学教室・教授
15	2008.5.31	樹状細胞から見た免疫応答の制御	稲葉 カヨ	京大 生命科学研究所 高次生命科学専攻生体応答学分野・教授
16	2009.10.3	亜鉛と免疫・アレルギー・炎症： 亜鉛はシグナル伝達分子である	平野 俊夫	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫発生学研究室・教授
17	2010.9.18	リウマチ性疾患に対するIL-6レセプター抗体療法	西本 憲弘	和歌山県立医大 免疫制御学講座・教授
18	2011.12.3	新規疾患概念、IgG4関連疾患—今、日本から発信！	梅原 久範	金沢医科大学血液免疫内科・教授
19	2012.9.15	メラノーマ免疫学と免疫療法の最近の進歩	河上 裕	慶應義塾大学 先端医学研究所 細胞情報研究部門・所長・教授
20	2013.10.12	がん遺伝子疾患のゲノム・エピゲノム解析	稲澤 謙治	東京医科歯科大学難治疾患研究所分子細胞遺伝学教授
21	2014.10.4	膠原病と自己抗体— 間質性肺炎合併皮膚筋炎における自己抗体の意義	三森 経世	京都大学大学院医学研究科内科学講座 臨床免疫学 教授
22	2015.12.5	オートファジー：疾患に対抗する細胞内大規模分解系	吉森 保	大阪大学大学院・医学系研究科遺伝学教室 大阪大学特別教授
23	2016.12.3	皮膚の恒常性と疾患における脂質代謝の新機軸	村上 誠	東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野 脂質代謝プロジェクト プロジェクトリーダー
24	2017.12.2	「次世代再生医療としての器官再生研究の戦略と展開	辻 孝	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
25	2018.12.8	マクロファージ・樹状細胞の発生分化	樗木 俊聡	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 先端分子医学研究部門 生体防御学分野 教授
26	2019.12.7	再生医療とがん免疫療法の現状と課題 —iPS細胞技術を用いた即納型T細胞製剤の開発—	河本 宏	京都大学 ウイルス・再生医学研究所 副所長 再生免疫学分野 教授
27	2021.2.6	既存の血管に存在する血管内皮幹細胞による 組織の維持と再生	高倉 伸幸	大阪大学微生物病研究所、情報伝達分野 教授
28	2021.12.11	がん幹細胞の細胞学的特性とその新たな治療戦略	佐谷 秀行	慶應義塾大学医学部 先端医学研究所 遺伝子制御研究部門 教授
29	2022.12.10	新型コロナウイルスの最近の話題とコロナ時代の抗菌薬適正使用	忍那 賢志	大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 教授
30	2024.2.3	色素幹細胞と色素性疾患：UpToDate	西村 栄美	東京大学医科学研究所 老化再生生物学分野 教授

市民病院に遡ると訂正する。) また、日生に関しては昭和44年時の主催が細田寿郎先生という記載があり、昭和41年も細田先生とした。府立大阪(現 急性期・総合医療センター)は当時の職員名簿(提供:大畑千佳先生)から池田四郎先生、北野病院は病院史(提供:吉川義顕先生)から原口康彦先生、大阪厚生年金(現, JCHO 大阪)は、病院30年史(提供:竹原友貴先生)から吉野一正先生、大阪通信(NTT 西日本→第二警察病院)と大阪警察(現, 第二警察病院)は、吉川邦彦先生の記憶と阪大75周年記念誌の記載からそれぞれ浅野象一郎先生と平松信夫先生と確認できた。大阪赤十字病院については、病院倉庫の古い資料(提供:八木洋輔先生)から、昭和35年は正木平蔵先生、昭和42, 3年の大阪赤十字は大桑 裕先生と確認できた。

余談であるが、久保山先生の記載があった大阪大学医学伝習百年史の214頁には、佐野先生が言及されていた大正6年の火災についての記載を認めた。

「大阪府立高等医学校が1915(大正4)年10月28日付で大阪府立医科大学に昇格し、志気大いに上がった翌々の1917(大正6)年2月19日に、附属病院内廊下で病人付添婦が誤ってアルコール吸入器を取り落とし忽ち大

火事となり、附属病院が全焼し、大損害を被った不幸があったため、当分の間は地区の学会どころではなかった」とのことである。

その後、再開を祝うように、第27回は、火災から1年後の大正7年2月24日に北浜、浪花亭にて開催されている。その時の日皮会誌の記載(18:277)を現代語で書き直すと、「参加者が22名と決して多くはなかったが、久々の集会のために遠方より来会された先生も(云々)」とのことであった。

5. 大阪地方会の運営の変遷

前述のとおり、1909(明治42)年5月7日に発足した大阪地方会は、今年2024年5月7日に満115歳の誕生日を迎えるが、その間に起きた節目となる出来事について述べる。

黎明期については、再び佐野先生が書かれた300回記念誌の文章から引用する。

本会(大阪支会)設立に際し「大阪皮膚科学会々員相互の親睦および知識の交換をもって目的とする」「評議員10名、会長1名、幹事2名」「会費毎月拾銭」などきわめて簡単な規則でもってスタートしている。昭和31年藤浪得二教授が阪大着任後、34年「皮膚」の発刊、36年同誌を大阪地方会の機関誌と定めた。同時に会員、名誉会員を規定し、世話人として理事・幹事を規定し、顧問を推戴することとした(皮膚5:62. 昭38)。このように機関誌「皮膚」の刊行により第130回以降の地方会抄録は全部同誌に掲載されているが、それ以前は第1回より時に断続することがあったが日皮誌に演題および抄録が載り、一時期(前述の幻の4回前後)皮膚科紀要に集録されている。

次に特筆すべきこととして、昭和44年9月(194回地方会)、阪大医局より役員改選の要望書が出され、従来あった上記の地方会規約の改変が迫られたことである。時あたかも学園紛争の最中に当る、(中略)45年5月15名からなる世話人会が組織され、新規約のもと、世話人会が運営委員となり、そこで本会が連営されることとなった。運営委員(任期2年)(筆者注;平成3年の運営委員会において、3年毎の改選に変更)は大学、病院、開業医単位で立候補制、選挙で選出され、学会(年6~7回)主催も従来大学を主とする施設であったのが、会員個人となりすべて運営委員会で会議指名されることとなった。また定期刊行物(機関誌)の刊行配布も重要な事業の一つで、「皮膚」の編集は別に編集委員会を設け、そこであたることとなったため爾来「皮膚」と大阪地方会は表裏一体となり歩みを続けることとなる。(以上、引用終わり)

全期間を通じて主催施設の項目を縦覧すると、1951(昭和26)年の116回までは、一部の例外を除いて、阪大(及びその前身)のみが担当していたが、その後は、125回大阪市大(現、大阪公立大)、119回大阪女子医大(現、関西医大)、131回大阪医大(現、大阪医薬大)、132回和歌山医大、133回神戸医大(現、神戸大)、137回奈良医大など各大学が担当するようになり、1960(昭和35)年からは市中病院が担当することが増えてきたが、そのサイクルに一定の法則性は認められない。その途上、1956年の128回からは「皮膚」に抄録が掲載されるようになった(Table 1-3)。1962~67年には海外の著名な教授の来日時に臨時の集会を開いたり、1964~67年にはテーマに沿った演題を募集したりで、年間6~7回の集会が定期的に行われている(Table 1-4)。

第200回記念地方会を主催した国立大阪の志水靖博先生の記録によると、初めての選挙により、1970(昭和45)年5月に運営委員が選出され、初代の運営委員長には佐野榮春が就任し、庶務は三木吉治、奥村雄二、会計は相模成一郎(会計補佐:堀木 学)が任命された。なお、第198回(1970.12.12)以降は、主催者として施設ではなく個人が指名される仕組みとなったため、第198回以降は、主催者→主催施設の順で記載する(Table 1-5)。

第199回(1971.3.13)の備考欄に「総会」とあるのが第1回目の総会である。その後、運営委員長は坂本邦樹(昭51~)、吉川邦彦(昭63年~)、宮川幸子(平16~)、片山一郎(平19~)、浅田秀夫(平31~)、藤本 学(令4~)へと受け継がれている。庶務は、奥村雄二(昭49~)、西岡 清(昭55~)、喜多野征夫(昭61~)、橋本公二(平1~)、土居敏明(平7)、板見 智(平8~)、佐野榮紀(平19)、金田眞理(平20~)、種村 篤(令4~)へと引継がれている。会計は、畑 清一郎(昭47~)が補佐として堀木 学(昭45~)、高安 進(昭47~)、小塚雄民(昭55~)、谷垣武彦(昭57~)の支援を受けつつ昭60まで務めた後、吉川邦彦(昭61~)、小塚雄民(昭63~)、岡田奈津子(平1~)、土居敏明(平6~)、浅田秀夫(平13)、小林照明(平14)、小澤健太郎(平15)、乾 重樹(平16~)、樽谷勝仁(平18)、吉良正治(平19~)、種村 篤(平24~)、清原英司(令4~)へと引継がれている。

6. テーマ演題・研究セッションについて

前述したように、1978（昭和53）年から1993（平成5）年にかけて12月の集会在研究地方会として開催されていたが、323回（1994.5.14）からは、回ごとにテーマに沿った演題を数題ずつまとめてコーナーを作るようになった（Table 1-7, Table 2）。430回（2012.3.24）からは、原則として3月の学会に研究演題を数題ずつまとめて研究セッションとして開催されるようになっていく。

7. 小林浩記念講演について

第324回以降、原則として年1回開かれている小林浩記念講演についても言及しておきたい。小林先生は、大阪大学（昭23卒）のご出身で、奈良医大助教授を務められた後、開業された。記念講演設置に至る経緯は、平成3年12月9日の運営委員会の議事録に記されていたので引用する。

- ・小林先生から、開業30周年を記念して地方会へ500万円の寄附があった。
- ・有難く受け入れ同先生の名を冠した招待講演、あるいは賞を設けることとした。
- ・この点については、小林先生のお考えを尊重するため問い合わせをする。

との記録があり、その後の話し合いの結果、1994（平成6）年7月から小林浩記念講演として、しかるべき演者を招いて講演が行われるようになった（Table 3）。

残念ながら小林先生は海外旅行の途上で帰らぬ人となってしまっても、その名は地方会において長く刻まれることになる。

8. 和歌山同時開催

大阪地方会は、大阪、兵庫、奈良、和歌山の4府県から構成されているが、大阪は全国で最も面積が狭いのに対して、兵庫は瀬戸内側と日本海側、奈良は南都地区と吉野地区、和歌山は紀北と紀南など、全く気候風土の異なる広大な面積を抱えている。特に和歌山紀南地区の会員に不便をかけているとの、和歌山医大の古川福実先生の発言を契機に、第380回（2003.12.6）から年に1回、和歌山同時開催を始めた。

9. PC プレゼン化

学術集会の運営における大きな変革として、PCプレゼン化に言及しておきたい。時は2004（平成16）年のことで、全国的にまだ2、3の学会が試行をしているとの噂を聞く程度で、一般に普及する前の話である。若い先生方はご存じないと思うが、従来の学会プレゼンは、35 mm スライドを10連ホルダーに装填して、スライドプロジェクターによって投影する形式で施行されていた。演者の「スライド、次」の掛け声に応じて、1コマずつホルダーをずらしてゆくのだが、プロジェクターの冷却ファンの轟音で演者の声がよく聞こえないため、何度も催促されることがあった。また、スライドフィルムは完全な平面でないことが多く、焦点を1ヶ所に合わせても別の所がぼやけてしまうということがあり、演者から「フォーカス!!」と言ってピントを合わせるように催促されても合わせることができず苦勞することもしばしばであった。そのため、若手の先生や製薬会社のプロパー（後にMRと改称）にとって、偉い先生の講演のスライド係は苦行であった。また、演者にとっても、35 mm スライドの作成は撮影、現像、マウントという工程を経る必要があり、新たに作るのも、1ヶ所修正するのも最低3日、時には5日くらい要するため、講演の1週間前には完成させておかないと安心できないという代物で、直前に間違いに気づいたりすると、顔面蒼白という状況であった。その点PCプレゼンはそのような苦勞から解放されるというメリットがあったが、当時はまだパワーポイントでプレゼン画面を制作して、液晶プロジェクターで投影するというシステムに対応するのは一部の施設（先生）のみであり、未だ液晶プロジェクターの性能も低く、皮膚疾患の症例写真や病理写真の色調再現は満足とは言えない状態であった。そのような状況の中、大阪大学皮膚科技官の西田健樹氏から、「（筆者が主催する）第385回の集会でPCプレゼンを試行しませんか？」という提案があった。西田氏としては、時代の流れとしてPCプレゼンは必須のものになるはずだが、最初に行う先生にリスクを負わせることになる中で、「土居先生なら失敗しても許してくれるだろう」とその当時の心境を吐露している。一方、筆者としても「自分が人柱になるしかない」という気持ちと同時に、1998（平成10）年の第97回日本皮膚科学会総会（主催：吉川邦彦）において、会場の大阪ロイヤルホテルと高知の四万十川流域の病院を電話回線で繋いで、動画と音声による遠隔診療の実験を成功させたという実績があった西田氏の腕を信じてPCプレゼンを試行したいと考えた。第383回の地方会の会場に集まった会員に対して、事前アンケート調査

を行ったところ、一部には、「対応できない施設（会員）を締め出すのか？」など、ネガティブな意見もあったが、20件程度の参加は見込めると判断し、とりあえず1度35mmスライドを全く使わない形で試行することを決断した。募集をすると19の演題が集まり、当日は時々止まりそうになり、ヒヤヒヤしながらも無事に完遂できた。その後、数回は35mmスライドでもPCでもOKとして開催されたが、両方に対応し続けるのは機材面でも運用面でも煩雑になることと、多くの施設（会員）がPC化に対応できるようになったため390回以降は全面的なPCプレゼンで現在に至っている。西田氏は第385回から第500回までの間、コロナ禍でWEBとのハイブリッド化された期間も1回も休むことなく、設営から撤収まで稼働中のトラブル対策を含めて大阪地方会を縁の下から支えてくれており、本当に頭が下がる思いである。この場を借りてお礼を申し上げたい。

10. その他の変革と将来

雑誌の統合に続いて、近畿集談会は第100回（2007年）を機に毎年7月の集会を大阪地方会と京滋地方会の共催とする改革が行われた。これにより、大阪・京滋両地方会の結びつきは一層強くなっている。その後、日本皮膚科学会の公益社団法人化（2012年）にともなって、地方会がその下部組織に組み込まれてそれまで蓄積していた繰越金が吸い上げられてしまうのか、独立したままでよいのかという問題で揺れ動いた時期があったが、最終的には後者で落ち着いている。学術集会においては、機構認定専門医の単位取得に沿う形で、一般演題以外に必ず教育講演や小林記念講演などを組み込む必要がありそれに対応するようになったため、演題数が多い時は、学会の終了時間が遅くなりがちである。また、雑誌編集面では、対面での編集会議を廃止して、多くの学術雑誌と同様、編集長からそれぞれの論文の内容にふさわしい先生に郵送で査読を依頼する形への変革が行われた。他方、財政的要因から、機関誌の発行を年6号から4号へ減らしたり、学術集会のプログラムに広告を載せたり、集会の冒頭にスポンサーセミナーを誘致したり等々、歴代の運営委員会並びに会計は財政の健全化に腐心している。さらに2020年からはCov19の流行によりWEB開催を余儀なくされたことは思わぬ財政負担となった。なお、雑誌のデジタル化移行という長年の課題には一長一短があり、なかなか結論が出せない状況である。

おわりに

以上、駄文にお付き合いいただきありがとうございました。115年の歴史を誇る大阪地方会に少なからず関わることができた者として、500回の節目で記録を残す役割を頂戴できたことは誠に光栄です。先人が記した記事を引用しつつも、筆者の視点から見た地方会の歴史を中心に記述したため、会員各位にはまた別の地方会の見え方があり、異論もあろうかと思われかもしれませんがご容赦ください。今後さらに50年、100年（750回、1000回）へと続いてゆくことを願って筆をおきたいと思います。

謝辞：ご多忙中にも拘わらず詳細なご高閲を賜った吉川邦彦先生、古い日皮会誌の写真を撮影してくれた大阪大学の坂井浩志先生、昭和28～44年の基幹病院責任者に関する情報提供を頂いた大畑千佳先生、吉川義顕先生、竹原友貴先生、八木洋輔先生に深謝します。また、この文章中に登場したすべての先生の地方会へのご貢献を労うとともに、毎年会費を納入して会を支えてくれた会員、購読会員、そして歴代の事務を担当された、沢木由紀子、原田麻紀、梅田智子、牛丸恵美子、亀山紀子、藤村知里、光山久実子諸氏に感謝いたします。特に光山さんは、長年にわたって庶務、会計担当者をサポートし、的確、迅速に事務処理をこなし、鋭い校正能力で編集作業を支えてくれており、いくら感謝してもしきれぬものではありません。

前号のエッセイに関する追加情報：

P341 15行目：大阪公立大の合併日は2022年4月（提供：鶴田大輔先生）